

鳥羽市予算決算常任委員会会議録

第 1 日 目

平成 2 9 年 9 月 2 0 日

○出席委員

委員長	戸上 健	副委員長	木下 順一
委員	奥村 敦	委員	片岡 直博
委員	河村 孝	委員	山本 哲也
委員	井村 行夫	委員	中世古 泉
委員	坂倉 広子	委員	世古 安秀
委員	尾崎 幹	委員	坂倉 紀男
議長	浜口 一利		

○欠席委員

委員 橋本 真一郎

○出席説明者

歳入 (全部)

- ・中村市長 ・立花副市長 ・小竹教育長 ・上村会計管理者
- ・山下企画財政課長、山本副参事、北村補佐、岩井補佐、栗原係長
- ・寺田総務課長、寺本副参事
- ・橋本市民課長
- ・松村税務課長、木田補佐、小島係長、中井係長、平山係長、滋野係長
- ・池田環境課長
- ・下村健康福祉課長、平賀副参事
- ・中村農水商工課長
- ・清水観光課長
- ・南川建設課長、中山副参事
- ・中井定期船課長
- ・世古教委総務課長、岩本学校教育課長、榎生涯学習課長
- ・濱口議会事務局長
- ・山下監査委員事務局長
- ・安部選挙管理委員会書記長
- ・益田消防長

歳出

議会費 (第1款)

総務費 (第2款)

公債費（第11款）

諸支出金（第12款）

予備費（第13款）

- ・立花副市長
- ・上村会計管理者、清水補佐
- ・山下企画財政課長、山本副参事、岩井補佐、北村補佐、栗原係長、山下副室長、村山副室長、重見係長
- ・寺田総務課長、寺本副参事、勢力補佐、世古補佐、奥村補佐、中村係長、山田副室長、高島係長、安部市民文化会館館長
- ・橋本市民課長、武中補佐、野村室長、横田係長、山崎主査、岡本係長、榊原主査
- ・松村税務課長、木田補佐、小島係長、中井係長、平山係長、滋野係長
- ・中井定期船課長、野呂補佐、大矢管理係長、
- ・濱口議会事務局長
- ・山下監査委員事務局長
- ・安部選挙管理委員会書記長

○職務のために出席した事務局職員

次 長
兼庶務係長 上 村 純
兼議事係長

(午前 8時59分 開会)

○戸上 健委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまから予算決算常任委員会を開会します。

橋本真一郎委員から体調不良のため今回の決算審査の全日程を欠席する旨の連絡がありましたので、ご承知おきください。

本会議において当委員会に付託されました案件は、議案第14号、平成29年度鳥羽市一般会計補正予算(第4号)、議案第18号、平成29年度鳥羽市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について、認定第1号、平成28年度鳥羽市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算認定について、認定第2号、平成28年度鳥羽市水道事業会計決算認定についての4件であります。

審査に入る前に、私から一言お願いを申し上げます。

まず、審査に当たりましては、認定第1号、認定第2号及び議案第18号から審査します。決算に係る審査の日数は4日間を予定し、事務局より配付しています決算審査日程により順次進めていきます。そして、議案第14号、平成29年度一般会計補正予算(第4号)の審査については、9月26日の1日を予定しています。

また、昨年の決算審査から議会選出監査委員にも出席をいただくことになりました。

そこで、議会選出監査委員であります井村行夫委員に申し上げます。

決算審査に当たり、委員として質疑を行っていただくことに制限はありませんが、監査委員として知り得た事実に基づく質疑は職責上の問題となりますので、発言の際は質疑の内容について充分にご注意ください。

さて、例年ですと、決算審査最終日の4日目に市長にご出席をいただき、決算に係る質疑に応じていただいておりますが、今回は市長から決算審査の初日に発言の申し出がありましたが、その前に少し注意をさせていただきます。

委員の皆さんのお手元に正誤表を配付してあります。実に20項目にも及ぶ決算書の誤りです。これほどの間違いは過去の委員会にありません。いわば前代未聞の出来事です。これは、決算審査に対する執行部の安易で緩慢な姿勢のあらわれです。決算とは、市民の血税を一円の無駄もなく真に有効に使ったか否かを突き詰める地方自治法の根幹にかかわる仕事です。厳格で正確な報告書があつて初めてきちんとした決算審査が可能です。今回あつてはならない事態を委員長としてきつく指摘し、二度とかくなる事態を招かぬよう心してください。

また、執行部のこうした緩みは議会側にも責任の一端があります。議会の決算審査が火の出るような緊迫した追及であれば、当然、執行部の姿勢は締まるものです。委員の皆さんの白熱した審査、緊張感ある問題意識の研ぎ澄ましを、この際、委員長としてあわせて要望しておきます。

少し熱く述べました。

それでは、市長の発言を許可いたします。

市長。

○中村市長 皆さん、おはようございます。

予算決算常任委員会の開催に当たりまして、私から一言ご挨拶申し上げたいというふうに思います。

このたびの決算審査は、私が市長に就任以来最初の審査になろうかというふうに思います。本来であれば、委員長も申されましたように4日間の審査の後に、最終日に私が同席をさせていただいて皆様方からの意見を頂戴するところではございますが、重要な公務のほうと重なっておりまして出席ができませんので、きょう初日にお邪魔をしてご挨拶申し上げますこととなりました。先ほどの書類の不備等もあり、皆さんにはご迷惑をおかけしまして、本当に申しわけございません。

28年の決算審査とはいえ、30年度の予算編成にも大変深くかかわってくる大事な審査でありますので、ぜひ慎重な審査のほうをお願いをいたしまして開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○戸上 健委員長 市長、退席していただいて結構です。

それでは、決算審査に入りますが、審査の開始に当たり委員の皆様をお願いいたします。

9月14日の議会改革推進特別委員会においても了承いただきましたとおり、今回の決算審査期間は毎日審査終了後に振り返りと議員間討議を行います。初めての試みです。どうかご協力のほどよろしくお願いをいたします。

審査は、平成28年度の決算内容に対する質疑にとどめていただき、関連する質疑がある場合はその都度発言いただき、質疑が重複しないようご協力いただきますようお願いいたします。

委員の発言は、委員長の許可を受けた後に行ってください。また、発言の際は必ずマイクのスイッチを入れてから発言いただき、終わったときは必ずスイッチを切ってください。時折、発言終了後もスイッチが入った状態が見られますので、隣席の委員が気づかれた場合は操作いただきますようお願いいたします。

執行部の説明については、鳥羽市歳入歳出決算に関する説明書並びに鳥羽市歳入歳出決算成果説明書等をお願いするわけですが、金額の説明については、決算に関する説明書の決算額、いわゆる歳入済額、歳出済額の欄で可とし、金額は1,000円単位で、1,000円未満は原則切り捨てていただくようお願いいたします。

決算に関する説明書の備考欄に掲載順の事業について説明してください。

全てを詳細に説明する必要はありません。特に当該年度に初めて取り組んだ事業や前年度と金額が大きく変わった項目などについては、詳しい説明をお願いします。

事前に議会事務局長名で決算審査に係る通知を行っております。説明に係る補足資料などの提出は事前に済ませておいてください。

執行部説明員の発言については、皆さんの挙手を受け発言の許可を与えていますが、すぐ許可が出せない場合があります。そのような場合は、先に所属と氏名を告げていただき、許可を受けた後、発言をいただくようお願いいたします。

それでは、審査に入ります。

まず初めに、決算の概要について、執行部の説明を求めます。

副市長。

○立花副市長 おはようございます。

予算決算常任委員会に当たりまして、私から決算の概要についてご説明申し上げます。

その前に、決算書類につきましてたくさんの誤りがあったことをおわび申し上げたいと思います。今後は、

こういうことがないよう十分に注意して書類の作成をしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、先日、週末から週明けにかけて台風18号、大変心配いたしましたけれども、間に採用試験の一次試験もありまして、行くかどうか非常に迷いました。一部定期船の欠航なんかで迷惑をおかけすることもございましたけれども、他市の状況とかいろんなことも考え合わせまして、今後の日程とかも考え合わせまして強行させていただきました。迷惑をかけたことがあったことはちょっと申しわけないなというふうに思っております。

それと、被害につきましては、雨のほうを心配しておりましたけれども、雨はそれほど大したことなくて、風が強かったので、ちょっと市民の皆さんにもいろいろと心配をおかけいたしました。余り大きな被害もなく過ぎていったということは、非常によかったかなというふうに思っています。だんだん高齢化が進んで、独居老人等も多くなってまいりましたので、嵐の日には大変不安な日々をお過ごしかと思います。その辺につきましては避難所等にての対応でいろいろ対応させていただければと思って、また、そういうことをチェックできるいい機会だったかなというふうに思っております。

それでは、ご説明に入らせていただきたいと思います。

これから審査をいただく議案につきましては、認定第1号、平成28年度鳥羽市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算認定について及び認定第2号、平成28年度鳥羽市水道事業会計決算認定についてであります。

認定第1号、平成28年度鳥羽市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算認定について、一般会計では歳入から歳出を差し引いた形式収支で2億6,682万9,000円、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支で2億6,657万6,000円の黒字となっており、他の特別会計決算も全て黒字となっております。

後ほど会計管理者から実質収支に関する調書についての説明と企画財政課長から一般会計の概要について説明をさせます。また、歳入歳出の詳細につきましては各所管課長から説明をさせますので、よろしく願い申し上げます。

続いて、認定第2号、平成28年度鳥羽市水道事業会計決算認定につきましては、4日目に水道事業管理者より詳細をご説明申し上げます。

本日から4日間の審査となりますが、各委員の皆様には何とぞよろしくお願いいたします。

○戸上 健委員長 会計管理者。

○上村会計管理者 おはようございます。会計管理者の上村です。

この席から、何か神聖な気持ちできょうは説明させていただきます。

先ほど副市長からのお詫びもありましたけれども、私も決算の調整をする責任としまして今回の誤りが多かったことを深くお詫び申し上げます。今後とももう一度精査しまして今後は間違いのないよう努めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、座って失礼いたします。

○戸上 健委員長 はい、どうぞ。

○上村会計管理者 それでは、私のほうから平成28年度一般会計、特別会計の決算における実質収支について、決算に関する説明書の実質収支に関する調書によりご説明申し上げます。

なお、この後、企画財政課長から決算の概要、分析結果等の説明がありますので、私からは決算の実質収支

のみ読み上げ、説明とさせていただきます。

それでは、別冊のお手元にあります決算に関する説明書の323ページ、324ページをお開きください。

よろしいでしょうか。緑の仕切りになっております。決算に関する説明書のほうです。数値の読み上げにつきましては、1,000円未満切り捨てで申し上げます。

まず、一般会計から申し上げます。

歳入歳出差引額は2億6,682万9,000円で、このうち翌年度へ繰り越す財源25万3,000円を差し引いた実質収支額は2億6,657万6,000円となりました。歳入合計とか歳出合計については省略をさせていただきます。

次に、国民健康保険事業特別会計におきましては、歳入歳出差引額で1,346万8,000円、実質収支額も同額でございます。

介護保険事業は、歳入歳出差引額で1,910万2,000円、実質収支額も同額です。

定期航路事業特別会計は、歳入歳出差引額は563円です。円単位まで申し上げます。実質収支額も同額です。

特定環境保全公共下水道事業特別会計は、歳入歳出差引額は円単位で765円です。実質収支額も同額でございます。

最後に、後期高齢者医療特別会計ですが、歳入歳出差引額は530万4,000円、実質収支額も同額です。

これら一般会計と五つの特別会計を合わせました歳入差引額は3億470万5,000円、このうち翌年度へ繰り越す財源、これは一般会計の分でございます。25万3,000円を差し引いた実質収支額は3億445万2,000円となりました。

以上、私からの説明とさせていただきます。

○戸上 健委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 企画財政課の山下です。よろしく申し上げます。

平成28年度一般会計、普通会計における決算の概要について、ご説明を申し上げます。

初めに、提出資料の訂正について深くお詫びを申し上げます。次年度に向けまして事務改善に取り組みます。

それでは、歳入歳出決算説明書をご用意いたします。

1ページ目は、決算の概要でございます。

2ページをお願いします。実施重点施策です。

平成28年度に実施したまち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた主な事業について記載をしております。国の地方創生加速化交付金を活用して移住・定住促進事業や海女のまち魅力発信事業等に取り組みました。詳細については歳出のところで各課から説明がありますので、省略をさせていただきます。

続きまして、一般会計の決算の説明に入ります。

3ページをお願いします。一般会計決算の状況です。

一般会計の決算規模は、歳入歳出とも昨年度を上回る決算となりました。決算の収支における形式収支で2億6,682万9,000円、実質収支で2億6,657万6,000円の黒字額を計上しました。実質収支率は4.3%で、この比率は3から5%の範囲が望ましいとされており、良好な決算であったと分析をしてお

ります。

本年度の決算が黒字となった要因は、歳出の執行残に加え、一般財源とする特別交付税及び市税の法人市民税、固定資産税が増加したことが主な要因でございます。単年度収支においては3,635万9,000円の赤字になったものの、実質単年度収支においては1億1,553万8,000円の黒字となりました。また、28年度は赤字要素とする財政調整基金からの取り崩しをせずに決算を打てたことは、良好な決算であったと分析をしております。

5ページをお願いします。歳入です。

歳入の決算規模では116億1,519万8,000円で、前年度と比べ4億4,794万4,000円の増額となりました。28年度は、地方消費税交付金や使用料及び手数料、市債が減額となったものの、寄附金、繰入金が大きく増額となったことが歳入決算規模増加の大きな要因です。それぞれの項目の増減理由については9ページ以降に分析をしておりますので、ご確認願います。

6ページをお願いします。

財源の区分別歳入決算状況をごらんください。

自主財源については49億3,623万円で、前年度と比べ5億3,022万7,000円の増額となりました。寄附金及び繰入金が増額が大きな要因となっております。

注視すべき点としては、自主財源のうち、ふるさと納税による寄附金、ふるさと創生基金からの繰入金が大きく増加したものの、29年度以降は返礼品の見直しによる影響を心配しております。また、自主財源比率は歳入総額に対する自主財源の割合で、この数値が高いほど行政の自主性や安定性が確保されていると言われております。本市においては、自主財源が少なく、主に地方交付税や交付金など国等の財源に頼らざるを得ない状況となっておりますが、ふるさと納税の増加に伴う影響により、28年度は42.5%と、ここ5年間で最高の数値となりました。しかし、自主財源の根幹である市税が伸び悩むなど注視していく必要があります。

このような状況の中、28年度は自主財源確保に向けた取り組みを継続する中で、7ページの自主財源の一覧に掲げる収入増を図りました。市営住宅跡地や遊休未利用地の払い下げについては減額となったものの、かんらん岩売払収入が増加となり、さらには、ふるさと納税寄附金が大きく伸び、財政運営に大きな財源となっております。

8ページをお願いします。一般財源等の状況です。

一般財源等の状況については、総額73億4,340万4,000円で、前年度と比べ8,114万6,000円の減額となっております。市税や繰越金が増加したものの、各種交付金や市債が減少したことによるものでございます。

9ページから15ページにかけては、歳入の款別の状況を記載しております。

10ページをお願いします。

目的税の充当状況のうち、都市計画税では収入額は1億2,023万2,000円で、法に定める都市計画事業に係る事業費として、池上公園の公債費に2,792万5,000円を充当し、未充当が発生している起債となっております。

11ページをお願いします。

地方交付税については、普通交付税で2,523万1,000円の減額、特別交付税で593万円の増額、合計で1,930万1,000円減額の33億3,452万9,000円を収入しております。特に、普通交付税が減少した要因は、基準財政需要額において臨時財政対策債や過疎対策事業債等の公債費が増となったものの、包括的算定経費が減となったことが主な要因でございます。特別交付税が増額となった要因は、離島航路運航維持対策や耐震改修事業に要した経費が増したことによるものでございます。

12ページをお願いします。

使用料及び手数料では、前年度に比べ7,752万2,000円減額となりました。長岡診療所指定管理業務を行ったことにより、へき地診療所使用料が減少したことが主な要因でございます。

国庫支出金では、前年度と比べ5,661万8,000円増額となりました。地方創生の推進に向けた地方創生加速化交付金が皆増となったほか、臨時福祉給付金事業補助金等が増したことが主な要因でございます。

13ページをお願いします。

繰入金のうち、ふるさと創生基金のふるさと納税分として、一覧表に記載しております26事業を含め3億5,869万9,000円を充当しました。ふるさと納税のPRや特産品に係る経費を初め移住・定住応援事業、それから高齢者の外出支援事業などの貴重な財源となっております。

16ページをお願いします。

下段の市債年度別残高の推移では、市債残高は28年度は若干下がりましたが、年々増加傾向にあります。増加傾向の要因には臨時財政対策債の増加が大きな要因となっておりますが、臨時財政対策債については全額交付税で措置されるものです。しかし、地方債残高がふえていくことは財政負担への影響も大きいことから、上段の市債発行額、元利償還金の推移のグラフでわかりますように、ここ数年は単年度における市債発行額が元利償還額を上回らないよう、特に起債事業を平準化するなど市債発行額の抑制に努めております。

ここで、事前に提出しております企画財政課の資料4の平成28年度借り入れた市債の交付税算入率の表をごらん願います。

資料には、事業名、起債事業、借入額、借入先などをまとめております。裏の面には、借入額の合計として10億7,160万円、うち交付税措置見込額8億4,680万5,000円、算入率は79.02と記載しております。市債の残高、合計で126億5,206万6,000円のうち、交付税算入見込額は90億4,826万1,000円、率にしまして71.52%が基準財政需要額に算定されている形となっております。

17ページをお願いします。歳出です。目的別歳出決算状況をごらんください。

歳出の決算規模は113億4,836万9,000円で、前年度と比較して4億9,520万円の増額となりました。衛生費や消防費が大きく減額したものの、総務費、土木費、教育費が大きく増額しております。

20ページをお願いします。性質別歳出決算状況をごらんください。

義務的経費は9,979万2,000円の増額となりました。人件費は減額となりましたが、扶助費と公債費が増額となりました。

投資的経費については7,948万2,000円増額となりました。補助事業の増額については、地方道路整備交付金事業、大規模建築物耐震改修事業費補助金、神島小中学校建設事業が増額したことによるものでございます。

単独事業では、神島小中学校建設事業が増額となったものの、答志和具コミュニティセンター建設事業並びに消防救急デジタル無線活動波設備整備事業の皆減等で減額となっております。

その他の経費では、物件費は減額となったものの、ふるさと創生基金積立金が大きく増加したことにより、総額で増額となっております。

続きまして、23ページをお願いします。財政指標の状況です。

初めに、財政力指数です。財政力指数は地方公共団体の財政力を示す数値で、交付税の算定に用いる基準財政収入額を基準財政需要額で割った数値で、収入が減った場合や需用額がふえた場合には下がるものです。平成28年度は3年間平均で0.452で、前年度と比較すると0.002の減少となりました。単年の財政力指数は0.449となり、前年度比で0.001の増加となりました。

単年度財政力指数が増加した要因は、基準財政収入額が減少したものの基準財政需要額の減少額が上回ったことにより、単年度財政力指数が増加となりました。また、24年度からの推移では年々減少傾向にあります。

24ページをお願いします。経常収支比率です。

28年度は88.3%で、前年度と比べまして2.7ポイント悪化をしました。この要因は、経常一般財源等では市税が増収となったものの、普通交付税及び各種交付金の収入が減額となったことが大きな要因となっております。さらに、人件費や公債費における経常経費充当一般財源等が増加傾向にあることは注視していく必要があります。

25ページをお願いします。健全化判断比率です。

健全化判断比率については、標準財政規模に対する決算の赤字額の比率でもって判断をするもので、括弧書きは鳥羽市における健全化判断基準の数値で、これを上回る場合は赤字解消に向けた早期健全化計画の策定義務を負うものとなります。28年度も実質赤字比率及び連結実質赤字比率は黒字であったことから、数値の算定はされず、早期健全化基準を下回っており、良好な状態であったと言えます。

実質公債費比率については、公債費による財政負担の度合いを判断する指標で、標準財政規模に対する公債費の実質的な償還額の比率で、28年度は7.7%で前年度と比べ0.1ポイント減少しております。単年度の比率は8.0%で0.7ポイント増加しました。増加した要因は、元利償還金が増となったことや標準財政規模が減少したことによるものがございます。

将来負担比率につきましては、市が将来負担すべき実質的な債務の標準財政規模に対する比率で、28年度は75.5%で前年度と比べ5.3ポイント減少しました。減少した要因は、地方債現在高や一部事務組合等地方債償還財源に係る負担が減となったことから将来負担額が減少したことに加え、財政調整基金などの充当可能基金が増となったことが主な要因です。

以上、決算の概要の説明とさせていただきます。

○戸上 健委員長 決算の概要等についての説明は終わりました。

これより質疑を行います。

決算の概要の部分について、ご質疑はございませんか。

ありませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、私から1点。

副委員長、すみません。

(委員長交代)

○戸上 健委員 1点お聞きします。

○木下順一副委員長 どうぞ。

○戸上 健委員 財政調整基金ですけれども、財調が7億円台を回復しました。これは何年ぶりでしょうか。

○木下順一副委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 7億円を超える基金残高は、平成13年度末が10億8,000万円でしたので、15年ぶりとなります。

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 15年ぶりという答弁でした。平成16年は、どん底で1億6,200万円しか財調がなかったわけです。毎年2億円から4億円の剰余金、黒字を出してきております財政当局の努力というのは、この間、大変なものだったというふうに思うんです。

28年度の決算は、当初予算では財調は3億7,837万円ということでした。決算は先ほどの答弁のように7億1,378万円と倍近くになったわけです。その要因は、財政課長、先ほどの概要説明の中でさまざまありましたので、また歳入歳出の各項目の中で委員から質問があると思いますけれども、当初予算で3億円台の財調の基金残高、28年度はですよ、それを予定しながら、決算では倍の7億円を超したということは、すさまじい結果ではなかったかというふうに思います。その点に関して、本来であれば政策経費にこれは充てることができる。財政は単年度主義ですから、単年度の収入で単年度の支出を賄うというのが基本原則となっております。そうすると、毎年2億円から4億円の剰余金を出すということは、その分、政策経費として市民のさまざまな事業に使えるわけです。こういう財調を毎年積み上げていくスタンスというのは、これからも続けていくのか。それとも、鳥羽市としての身の丈の財調というのは、この程度でもう打ちどめにして、あと大部分を政策経費に充てる財政運営をしていくのか。28年度決算から、あなた方が新年度予算以降はこういう姿勢で臨みたいというのがあれば、それをちょっと説明してください。

○木下順一副委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 財政当局のスタンスということですが、全国的に少子高齢化への対応とか、これからの税収の見込み、それから長引く景気の低迷、非常に先行きは不透明であります。こういう中、鳥羽市も同じような状況で、そういう中で財政当局としては、将来の財政負担にも配慮をしながら財源を必要なところに効率よく配分しまして、市民の満足いく行政サービスをいかに提供できるか頭を悩ませております。

財調につきましては、時には大規模な事業展開により基金残高が前年度より減少するようなこともあるかと思えますけれども、少しでもよい予算となるように努力をしつつ、少しでも基金をふやしていきたい。例えば、10年後には財調を10億円とか12億円の残高を目指していきたい。これが財政当局の現在の基本スタンスです。

以上です。

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 去年の27年度決算委員会で私がお聞きしましたら、今、会計管理者の上村前企画財政課長は、標準財政規模が六十数億円ですから、鳥羽は、その1割、6億は財調で確保しておきたいと。ほかの市町は大体10億円というのをほとんど超えておるので、それに近づきたいという答弁でした。標準財政規模はこの28年度決算でも六十数億円ですから、それを超したわけですね。ですから、第一の目標は僕はクリアしたんじゃないかというふうに思うんです。そやもんで、毎年2億円、3億円ということを積み上げて、さっき財政課長が答弁したように早く10億円から12億円ためておきたいんだという姿勢なのか、それとも可能な限り毎年数千万円から1億円ぐらいずつ徐々にため込んで、ソフトランディングというか、そういう伸ばし方をするのか、基本的な考え方、スタンスというのはいかがなんでしょうか。

○木下順一副委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 お金をたくさん使うかどうかということですが、政策的経費に充当するお金の額と、それから効果を高めるという、その点があると思うんです。ですので、同じ事業費100万円を使っても、その効果が高くなるようなことをこれからどんどんと今まで以上に組み込んでいって、額が大きかったらというよりは、その効果が高くなるような努力を各課ともどもこれからちょっと工夫をさらにして、その額よりも効果が高まるような工夫をしていきたいと思っています。あとは、結果的に財調の残高はジグザグで折れ線グラフのように上がったり下がったりしますが、一応、めどとして、目標として10年後に例えば10億円とか、そういうような気持ちでおります。

以上です。

○戸上 健委員 わかりました。

○木下順一副委員長 よろしいですか。

委員長を交代します。

(委員長交代)

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 すみません。9ページの市税の状況のところ、個人市民税で個人事業の増収により1,563万8,000円、2.2%の増ということで説明していただいておりますけれども、個人事業の増収のところ、ここの業種とかという部分、どういった業種がよかったのかとか、例えばですけれども、全体的によかったのか、業種を絞れるかどうかというのは……。

歳入のほうで聞いたほうがいいですか。ここじゃないほうがいいですか。ほかで聞くところはありますか。

○戸上 健委員長 歳入の項で、各市税のうちの個人市民税、法人市民税、そういう増減が全部出ておりますもので、具体的には歳入のほうで聞いてください。

ほかよろしいでしょうか。

歳入歳出のところに出ないのは、目的別、性質別歳出です。人件費とか、そこにある、いわば縦線の項目、これはこの場でぜひ審議していただきたいというふうに思うんです。各款別の状況については、歳出のところ各課別のやつをやりますもんで、そこでやっていただければいいわけです。

ありませんか。

例えば、性質別といいますと、これは物件費の状況、それから補助費、交付金、そういったものは別紙、企

画財政課からA、B、C、Dのランクづけをした資料も決算委員会に出ております。あれは、Aは維持強化やったかな、それからBは再検討、それからCは補助について吟味するというような中身になっております。だから、そのあたりも全体としてどうかという議論があれば出していただきたいと思うんですけども。個別の各課の審査をするときに出していただけますか。

(「はい」の声あり)

○戸上 健委員長 はい、わかりました。

ないようですので、暫時休憩いたします。この時計で5分まで休憩します。

(午前 9時42分 休憩)

(午前 9時54分 再開)

○戸上 健委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、一般会計歳入について担当課長の説明を求めますが、歳入の説明、質疑については、事業を伴うもの、国や県の補助金により補助事業を行っているものについては、歳出のところで詳しく説明、質疑を行っていただくようお願いします。

なお、国庫支出金、県支出金にそれぞれ収入未済額が記載されていますが、これらは6月議会において、報告第1号、平成28年度鳥羽市一般会計繰越明許費繰越計算書として報告がされています。ここでは確認程度にとどめおきください。確認のため、事務局より各委員にはコピーを配付しておりますので、ごらんをお願いします。そのため、ここでは歳入における市税や使用料、手数料、財産売却収入、諸収入に対する質疑を重点的に行っていただくようお願いします。

それでは、担当課長の説明を求めます。

税務課長。

○松村税務課長 税務課、松村です。よろしく申し上げます。

歳入についてご説明申し上げます。

歳入歳出決算に関する説明書は1ページ、成果説明書のほうは9ページからお願いいたします。

また、事前に個人市民税の調定額、収納額並びに主な所得の前年度比較に関する資料、地方税法の適用条項別にまとめた不納欠損に係る資料を提出させていただいております。ご確認ください。

それでは、歳入、市税について説明いたします。

決算に関する説明書1ページ、2ページをごらんください。

1款市税の収入済額は28億5,986万9,000円で、前年度に比べ699万9,000円、0.2%の増となりました。現年課税分では、市民税で個人、法人を合わせ2,959万9,000円、固定資産税2,212万6,000円、軽自動車税で1,065万8,000円の増加となりましたが、滞納繰越分で個人市民税516万1,000円、固定資産税で4,083万6,000円の減額となりました。収納率につきましては、現年課税分で1.4ポイント増の97.6%、滞納繰越分では8.0ポイント減の20.7%となり、市税全体では1.8ポイント増の89.1%となりました。

続いて、不納欠損額です。2ページ上段です。

平成28年度の市税の不納欠損額は6,579万4,000円で、前年度に比べ353万9,000円の増となりました。主な要因は、固定資産税において地方税法第15条の7第5項を適用し、執行停止後、納付義務を直ちに消滅させたケースで、前年度は1,000万円を超える大型案件が1件でしたが、平成28年度は2件であったことなどにより、前年度に比べ286万9,000円増加したことなどによるものです。

なお、不納欠損の決定は、三重地方税管理回収機構へ移管し、滞納処分実施後、鳥羽市へ返還される際に執行停止と判断した案件や、課の徴収担当者が財産調査や滞納処分を行うなど可能な限り徴収に努めた後、課内での精査を経て徴収不可能と認められるものについて、市税等滞納金調査整理委員会に諮り、最終決定をしていただいております。

また、収入未済額については2億8,242万2,000円で、前年度比7,208万2,000円の減となりました。

続いて、税目別に説明いたします。

1項市民税の収入済額は9億1,376万3,000円で、前年度に比べ2,438万4,000円の増となりました。主な要因は、現年度分で個人市民税が1,563万8,000円の増加となり、法人市民税でも事業者の再編による申告時期の変更や業績の向上により1,396万1,000円の増加となったことによるものです。

次に、2項固定資産税の収入済額は14億3,559万7,000円で、前年度に比べ1,875万1,000円の減となりました。減収の主な要因は、年度当初の繰越額が圧縮されていることもあり、滞納繰越分の収入済額が4,083万6,000円減少したことなどによるものです。

次に、3項軽自動車税の収入済額は5,873万5,000円で、平成28年度から重課税率が適用となったことなどにより1,032万9,000円の増となりました。

3ページをお願いします。

4項市たばこ税は、収入済額は1億5,931万4,000円で、前年度と比較し895万5,000円の減となりました。

5項入湯税の収入済額は1億7,222万7,000円で、前年度と比較し96万8,000円増加しております。

次に、6項都市計画税の収入済額は1億2,023万2,000円で、固定資産税と同様に当初の滞納繰越額も減っていることから97万6,000円の減となりました。

以上でございます。

○戸上 健委員長 北村課長補佐。

○北村課長補佐 企画財政課、北村です。よろしく申し上げます。

続きまして、3ページ下段から6ページ上段までをお願いします。

2款地方譲与税につきましては、予算より279万4,000円増の5,679万5,000円を収入しております。そのうち、項1地方揮発油譲与税につきましては、予算より58万9,000円増の1,658万9,000円を収入しております。地方揮発油税の徴収金の100分の42に相当する額を国の基準によって配分されたものとなります。

項2自動車重量譲与税につきましては、予算より220万6,000円増の4,020万6,000円を収入しております。自動車重量税収入額の1,000分の407に相当する額を国の基準によって配分されたものとなります。

5ページをお願いいたします。

項3地方道路譲与税につきましては、旧法により課税された経過措置分に係る収入はございませんでした。

○戸上 健委員長 税務課長。

○松村税務課長 続きまして、交付金でございます。成果説明書は10ページになります。

3款利子割交付金の収入済額は、前年度に比べ76万4,000円、19%減の326万6,000円となりました。金融機関などから支払いを受ける預貯金の利子等の減少によるものです。

続いて、4款配当割交付金の収入済額は、前年度に比べ563万7,000円、41.3%減の801万4,000円となりました。

続いて、5款株式等譲渡所得割交付金の収入済額は、前年度に比べ766万2,000円、62.0%減の469万3,000円となっております。

○戸上 健委員長 北村課長補佐。

○北村課長補佐 次に、6款地方消費税交付金につきましては、款、項、目、同じとなります。予算より3,924万1,000円減の3億5,075万9,000円を収入しております。国から県へ払い込みされた額の2分の1相当額のうち、国の基準により配分されたものとなります。

7ページをお願いいたします。

7款自動車取得税交付金につきましては、款、項、目、同じとなります。予算より517万6,000円増の1,517万7,000円を収入しております。自動車取得税収入額に国の基準により配分されたものとなります。

8款地方特例交付金につきましては、款、項、目、同じとなります。予算より50万9,000円減の519万1,000円を収入しております。国の施策で減税されました住宅借入金等の特例税額控除に係る地方税の減収分として配分されたものとなります。

9款地方交付税につきましては、款、項、目、同じとなります。予算より4,158万7,000円増の33億3,452万9,000円を収入しております。詳細につきましては、先ほど概要の11ページでご説明したとおりとなります。

続きまして、7ページの下段から10ページまでとなります。

10款交通安全対策特別交付金につきましては、款、項、目、同じとなります。予算より17万5,000円減の152万5,000円を収入しております。道路交通法に定める反則金を財源として、県の基準で交付されたものです。

続いて、9ページから10ページをお願いいたします。

11款分担金及び負担金につきましては、予算より463万2,000円減の6,539万9,000円を収入しております。減額の主な要因は、目1民生費負担金の保育所保育料が減ったことによるものです。なお、収入未済額の27万7,000円につきましては、養護老人ホーム措置費負担金と保育所保育料となりま

す。

続いて、9ページ下段から14ページまでをお願いいたします。

12款使用料及び手数料につきましては、予算より1,405万7,000円減の3億5,506万2,000円を収入しております。そのうち、項1使用料につきましては、予算より1,094万2,000円減の3億1,597万3,000円を収入しております。減額の主な要因は、目3衛生使用料のへき地診療所使用料及び目6土木使用料の市営住宅使用料が減となったことによるものです。なお、収入未済額1,916万1,000円につきましては、市営住宅使用料と改良住宅使用料が主なものとなります。

続いて、13ページの下段から16ページまでとなります。

項2手数料につきましては、予算より311万5,000円減の3,908万8,000円を収入しております。減額の主な要因は、目2衛生手数料の一般廃棄物処理手数料（指定ごみ袋分）が減となったことによるものです。

続いて、15ページの下段から18ページまでとなります。

13款国庫支出金につきましては、予算より1億4,165万4,000円減の11億5,862万5,000円を収入しております。そのうち、項1国庫負担金につきましては、予算より1,244万6,000円減の6億6,203万7,000円を収入しております。減額の主な要因は、目3災害復旧費国庫負担金が減となったことによるものです。

続いて、17ページの中段から22ページまでとなります。

項2国庫補助金につきましては、予算より1億2,805万3,000円減の4億9,067万1,000円を収入しております。減額の主な要因は、目2民生費国庫補助金の地域生活支援事業補助金や年金生活者等支援臨時福祉給付金給付事業費補助金が減となったことによるものです。なお、収入未済額9,310万5,000円につきましては、目2民生費国庫補助金の臨時福祉給付金給付事業補助金、目7教育費国庫補助金の学校施設環境改善交付金が翌年度に繰り越したることによるものです。なお、新たな国庫支出金の主なものにつきましては、概要の12ページに一覧を記載しておりますので、後ほどごらんをお願いします。

続いて、21ページの中段から22ページまでお願いいたします。

項3委託金につきましては、予算より115万4,000円減の591万6,000円を収入しております。減額の主な要因は、目2民生費委託金の国民年金事務費交付金が減となったことによるものです。

続いて、21ページ下段から24ページまでお願いいたします。

14款県支出金につきましては、予算より2億9,057万4,000円減の6億6,879万3,000円を収入しております。そのうち、項1県負担金につきましては、予算より577万円減の3億1,974万8,000円を収入しております。減額の主な要因は、目2民生費県負担金の災害弔慰金負担金が皆減となったことによるものです。

続いて、23ページ下段から28ページまでをお願いいたします。

項2県補助金につきましては、予算より2億8,124万7,000円減の2億9,558万円を収入しております。減額の主な要因である収入未済額2億5,678万5,000円につきましては、目1総務費県補助金の個人番号カード交付事業費補助金、目4農林水産業費県補助金の漁港施設整備事業費補助金（国補事業）、

漁業経営構造改善事業費補助金が翌年度に繰り越しとなったことによるものです。

続いて、27ページの下段から32ページまでお願いいたします。

項3委託金につきましては、予算より355万6,000円減の5,346万4,000円を収入しております。減額の主な要因は、目1総務費委託金の選挙費委託金が減となったことによるものです。

続いて、31ページの上段から32ページまでお願いいたします。

15款財産収入につきましては、予算より2,533万3,000円減の1億1,629万5,000円を収入しております。そのうち、項1財産運用収入につきましては、予算より83万8,000円減の4,677万9,000円を収入しております。減額の主な要因は、目2利子及び配当金の預金利子が減となったことによるものです。なお、収入未済額16万7,000円につきましては、目1財産貸付収入の市有土地建物貸付収入となります。

続いて、項2財産売払収入につきましては、予算より2,449万5,000円減の6,951万5,000円を収入しております。減額の主な要因は、目3不動産売払収入の不動産売払収入が減となったことによるものです。なお、収入未済額20万円につきましては、目1生産物売払収入の水産物売払収入となります。

続いて、31ページの下段から34ページまでお願いいたします。

16款寄附金につきましては、予算より3,676万8,000円増の5億5,031万9,000円を収入しております。増額の主な要因は、目1総務費寄附金のふるさと納税寄附金が増となったことによるものです。

続いて、33ページ下段から36ページまでお願いいたします。

17款繰入金につきましては、予算より1億1,956万3,000円減の5億969万8,000円を収入しております。減額の主な要因は、目1財政調整基金繰入金が皆減となったことや目3ふるさと創生基金繰入金が減となったことによるものです。なお、主なふるさと創生基金繰入金充当事業につきましては、概要の13ページに一覧を記載しておりますので、後ほどごらんをお願いします。

続いて、35ページの下段から36ページまでお願いいたします。

18款繰越金につきましては、款、項、目、同じとなります。予算とほぼ同額の3億1,408万4,000円を収入しております。

続いて、35ページの下段から42ページまでお願いいたします。

19款諸収入につきましては、予算より349万5,000円増の1億6,550万円を収入しております。そのうち、項1延滞金加算金及び過料につきましては、予算より339万5,000円増の1,239万5,000円を収入しております。増額の主な要因は、目1延滞金が増となったことによるものです。

続いて、項2市預金利子につきましては、予算より10万2,000円減の19万円を収入しております。

続いて、項3貸付金元利収入につきましては、予算とほぼ同額の3,260万円を収入しております。なお、収入未済額3,147万8,000円につきましては、平成22年度末で廃止となり特別会計より引き継ぎました目2民生貸付金元利収入の福祉資金貸付金元利収入と住宅新築資金等貸付元利収入となります。

続いて、項4雑入につきましては、予算より20万8,000円増の1億2,031万4,000円を収入しております。なお、収入未済額726万円につきましては、目1雑入の生活保護法による返還金となります。

続いて、41ページの上段から46ページまでお願いいたします。

20款市債、項1市債につきましては、予算より1億4,070万円減の10億7,160万円を収入しております。減額の主な要因は、目2民生債の災害援護資金貸付金、目4農林水産業債の漁港整備事業債、目5土木債の地方道路等整備事業債、目6消防債の消防施設整備事業債、目7教育債の神島小学校建設事業債及び神島中学校建設事業債と同中学校整備事業債、目8災害復旧債が減となったことによるものです。なお、市債の借入れ状況につきましては、概要の14ページから15ページに一覧を記載しておりますので、後ほどごらんをお願いします。

以上、平成28年度の一般会計歳入合計は、予算より6億5,370万5,000円減の116億1,519万8,000円を収入しております。

これで歳入の説明を終わらせていただきます。

○戸上 健委員長 説明は終わりました。

これより質疑を行います。

ご質疑はございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員 すみません、先ほども聞いたんですけども、説明資料のほうの9ページのところで、個人事業の増収によりということで記載されていますが、ここの個人事業の業種とかというのは特定できたりするのでしょうか。

○戸上 健委員長 税務課長。

○松村税務課長 事前にお渡しさせていただきました資料があると思うんですけども、そちらのほうの個人市民税の収入額、調定額の表をごらんいただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○松村税務課長 2番の主な所得合計額の比較があると思います。主にふえているのが営業所得になりますが、営業所得の中には漁業所得が入ってまして、今回、その3段の主な増減の要因の中に文章でも表示させてもらっているんですが、漁業の水揚げ高が比較的良好で、そちらのほうの漁業者の方の営業所得というのが高くなっておりまして、個人市民税のほうが高いような状態になっています。

○戸上 健委員長 よろしいか。

○山本哲也委員 すみません、見落としておりました。申しわけございません。ありがとうございます。

○尾崎 幹委員 1点いいかな。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 地方交付税の状況の中で、基準財政需要額の包括的算定経費、これの内訳をちょっと教えてください。算定経費とは何か。

○戸上 健委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 決算成果説明書の11ページのところに地方交付税の状況があります。そこに基準財政需要額の項目がありまして、そこにその包括的算定経費の減とありますね。今おっしゃられました包括的算定経費というのは、国勢調査の人口が減りましたので、それによって、包括的ということは全体的という、それで

その人口に係る交付税の基準財政需要額が下がったという意味合いです。基準になるところが人口ですので、人口が下がるとそれによって交付税も下がるという理屈になっています。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 交付税の算定って人口だけじゃないわけですよんか、人口は減っておるといっても1桁台。これがこれだけ減ってくるというのは、全国一緒のことなんやとは思うんやけれども、これはやっぱり大きいと考えていますか。

○戸上 健委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 人口の減少は大きな影響と考えています。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 その算定経費、算定というところ辺に、何かマジックではないけれども、本来やっぱりいい時代、対策債とか、みんなふえておるわけですよんか。そやもんで、人口だけでこんな算定してくるの。

○戸上 健委員長 北村課長補佐。

○北村課長補佐 この包括算定経費につきましては、平成19年からの新型交付税ということで、この減につきましては、単位費用ということで、人口1人当たりの単価も交付税の算定の基準となっています。それが下がったということになります。

○尾崎 幹委員 それが一番大きいんやな。ありがとうございます。

続いて、38ページ。市預金利子なんですけれども、10万円ほど減っておる。これは何パーセントから何パーセントに減ったの。29万円が本来の収入だったはずやけれども。

○戸上 健委員長 会計管理者。

○上村会計管理者 当初、予算にこの折に計上しておったのが、予定しておったのが0.1またはいいところで0.2。ただ、28年2月にマイナス金利政策で、そこからがた落ちてまして、もう0.1を下回っておるといふ、現在でも0.01なんです。ということで、当初予算に見込んだときより大幅に、やっぱり金利が0.0幾つというふうな形に、ちょっと銀行の名前までは申し上げられませんが、差が大きくて、それで予算に対して、補正予算ではなぶらなかったんですけれども、残額として執行残として残しました。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 思っておるより多かったもので、本来やったらもっと下がるものかなと思っておったもんで。0.1から0.0001ぐらいまで本当はマイナスなんやで、ここでもう19万円もらえたなと思って。やっぱりそれが要因で、頑張ってくれたんやね。ありがとうございます。

以上。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

歳入、大事な点ですけども、他にありませんか。

○木下順一副委員長 委員長、いいですか。

○戸上 健委員長 じゃ、ごめん。

(委員長交代)

○木下順一副委員長 交代して、委員長、どうぞ。

○戸上 健委員 3点お聞きします。

まず、1ページ、2ページの市税の収入未済額についてお尋ねします。

今回2億8,242万円ということになりました。収入未済額というのは市税の滞納ということですね。滞納が2億円台になったというのは過去にありましたでしょうか。

○木下順一副委員長 税務課長。

○松村税務課長 すみません、ちょっと私はそこまでは調べていなかったんですけども、年々下がってきて、税務課のところの決算成果説明書の、飛んでもらって申しわけないんですけども、92ページにあると思うんですけども、そちらの表からいくと多分もう平成17年以降なかったと思います。その表に一応滞納繰越額の推移がありますので、そこからいくと、もう右肩下がりで一方ですので、2億円を切ったというのは今回初めてかな——繰越額は3億円になっていますけれども——と思います。

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 おっしゃるとおりで、僕の調べでも2億円台になったというのはありません。23年度は5億5,000万円で、今の倍以上、市税の滞納がありました。ですから、以前からこれまでの努力でここまでよく克服してきたというふうに思います。市税徴収率も上がっていますから、不納欠損をしたということも一つの算定ベースの要因になっていますけれども、その点でも評価できるというふうに思います。

○木下順一副委員長 どうぞ。

○戸上 健委員 2点目、入湯税についてお尋ねします。

入湯税は当初予算と、それから減額補正したよりも、なお減少しました、決算でね。宿泊数というのは28年度の観光統計によりますと2%減にとどまっているにもかかわらず、入湯税のみ当初予算比で12%も減少しました。この理由は何でしょうか。

○木下順一副委員長 税務課長。

○松村税務課長 入湯税は、当初サミットの警備の方の分も一応入湯税を入れていただけであろうということで予算は計上しました。減額補正を後ほどさせてもらっていますけれども、警備の方については課税免除をさせていただいている分が大きかったのと、年度途中で想定していなかったホテルの閉鎖がありましたので、その影響もあります。さらに、観光客数の2%減は観光統計の数字やと思うんですけども、観光統計のほうは年単位で集計されているのと、こちらのほうは年度というのもありまして、若干の差異があるかなということも感じます。

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 3点目ですけども、5ページの地方消費税交付金についてお聞きします。

個人市民税も法人税も当初予算比では増収をしております。これは、先ほども税務課長が答弁したとおり、営業所得の漁業所得の増の要因は景気の反映ですわね。ところが、景気の反映を最もあらかず地方消費税交付金が当初比で4,000万円、10%も減収しました。この理由は何でしょうか。

○木下順一副委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 地方消費税交付金の減収の理由ですけれども、これは国が取って県に渡ってきて市に来るという流れになっていまして、なかなか動向はつかみにくいんですけども、たまたま時事通信社発行の税務経理という税務課のほうへ1週間に一遍ぐらい来るような税の情報誌がありまして、その中に、8月25日号ですけれども、平成28年度の税込決算見込みと特色のコーナーというのがありまして、三重県の状況が記載をされておりました。この記載のところを紹介します。

地方消費税は14.7%縮小。原油安で輸入額が減少し、貨物割が23.6%減り、譲渡割も6.8%減少した。これに対して、三重県の税込確保課は、原油価格回復の兆しが見られ、29年度の改善を期待すると。このように書いてありました。三重県は、原油安で輸入額が減少したことが地方消費税交付金の減少というふうにしていましたので、それが14.7%減ですので、鳥羽市もその影響で12.9%減少したと思っております。以上です。

○戸上 健委員 よくわかりました。

○木下順一副委員長 よろしいですか。

○戸上 健委員 はい、結構です。

○木下順一副委員長 委員長をかかります。

(委員長交代)

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。40分から再開いたします。

(午前10時31分 休憩)

(午前10時39分 再開)

○戸上 健委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

一般会計歳出の審査に入ります。

第1款議会費について局長の説明を求めます。

局長。

○濱口議会事務局 議会事務局、濱口です。お願いします。

1款議会費について、私のほうから説明をいたします。

決算に関する説明書は47ページから50ページ、また決算成果説明書は35ページから43ページでございます。

では、決算に関する説明書47、48ページをごらんください。

議会費の平成28年度決算の支出状況は、款項目とも同額の1億3,970万9,000円でございます。前年度の決算と比較しまして大きく変わったところといたしましては、第4節の共済費でございまして、一昨年前の改選時における議員資格喪失者への一時金の支出などを含め、改選時には一時的に共済負担金がふえていましたが、通常負担になったことから1,296万6,000円の大幅な減額となっております。

また、不用額の352万6,000円につきましては、主なものとして第9節の旅費92万5,000円と13節の委託料128万円で、旅費につきましては委員会の視察時においてレンタカー等を使用したこと、また議会報告会の見直しなどによるものでございます。

委託料につきましては、議会内の各会議の議事録作成業務の時間数を多く見込んでいたことによるものであります。

それでは、決算成果説明書の35ページのほうをごらんください。

議会全体の総括といたしましては、昨年度、改選後2年目となり、5月には副議長の選出がございました。また、会議規則の改正を行いまして、正規の協議の場として広報広聴委員会の設置を行っております。これに伴う新たな議会報告会及び意見交換の場としてTOBAミライトークを設置し、これまでの議会報告会とはまた違った形での広聴の位置づけを図っております。

新たに実施した事業といたしましては、昨年10月に愛知県田原市議会との間で伊勢湾フェリーの船上におきまして友好交流協定の締結を行いました。また、政務活動費における支出状況について、8月から活動報告並びに提出されました請求書・領収書等について議会ホームページにて公開を行っております。

次に、36ページをごらんください。

本会議の開催につきましては、平成28年5月16日の本会議において副議長の選出を行っております。また、6月議会では、平成22年12月定例会以来6年ぶりとなります議案1件の否決のほうがございました。

それから、37ページになります。

各委員会では、文教産業常任委員会が所管事務調査として「景観と再生可能エネルギーの調和について」決議を行い、調査のほうを進めました。

新たに立ち上げました広報広聴委員会では、多世代の方々から声を聞くという目的のもとにTOBAミライトークをスタートさせたところであり、進め方などについては今後、検討・改善を加えながら進めていくということで現在に至っております。

次に、行政視察の受け入れについてであります。決算成果説明書の40ページ下段のほうから42ページの上段のほうに記載しております。

平成28年度におきましては、42団体で360名の視察を受けました。そのうち、本市で宿泊をお願いしております県外からの視察は40団体で332名となっております。

続いて、42ページのほうです。

インターネットの中継の視聴回数につきましては、本年度から会議名別の画像登録数と延べ登録時間について平成28年度実績として一覧を掲載させていただきました。

また、その下に、議会報告会・意見交換会として、TOBAミライトークの開催状況における一覧も掲載をさせていただいております。昨年は五つの団体とのトークのほうを実施しております。

説明は以上でございます。

○戸上 健委員長 第1款議会費の説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ちょっと1点だけ。

行政視察のうち執行部の対応10団体、これは執行部は何課が対象になっているか、わかりますか。執行部が対応した10団体は何課が一番多かったか。

○濱口議会事務局長 議会以外の課で一番多く対応していただいたのは、観光、農水のほうが中心になって対応していただいております。

以上です。

○尾崎 幹委員 わかりました。ありがとう。

○戸上 健委員長 他にありませんか。よろしいか。

局長、全国の各市議会で政務活動費の使い方について問題になっておりますけれども、我が鳥羽市議会の政務活動費の28年度の透明度、公開度、これは全国に誇るべき中身だというふうに言うて差し支えありませんか。

○濱口議会事務局長 現状としては、ホームページ公開もしておりますので、大体足並み、公開度としては全国ではいいほうにおると思います。ただ、中身につきましては、議員各位の内容となってきますので、その辺は事務局のほうも十分チェックした上で公開をさせていただいております。

以上でございます。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、次に第2款総務費のうち、項1総務管理費。決算に関する説明書は49、50ページから81、82ページについて、担当課長の説明を求めるところですが、目14地域振興費のうち地域おこし協力隊事業や集落支援員事業、決算に関する説明書の73、74ページから75、76ページ等については、複数の課に予算が配分され、それぞれ事業が進められたことから、ここでは事業の概略の説明を受けることにとどめていただき、各事業の詳細については、各所管課の主たる決算を審査する際に質疑を行っていただくよう委員の皆さんにはご協力をお願いします。

それでは、第2款総務費のうち、項1総務管理費について説明を求めます。

総務課長。

○寺田総務課長 総務課、寺田です。よろしく申し上げます。

決算に関する説明書49ページ、50ページからでございます。あと決算成果説明書は総務課分が58ページからとなっておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、決算に関する説明書49、50ページをお願いします。

款2総務費、項1総務管理費、目1一般管理費の支出済額は6億2,660万円で、前年度より7,585万3,000円の増となっております。主な要因は、総務給与等管理費での退職手当の増によるものでございます。

備考欄1総務給与等管理費でございます。成果説明書は59ページから61ページですので、よろしく申し上げます。

支出済額は5億9,956万7,000円で、前年度より7,466万円の増でございます。主な要因につき

ましては、南三陸町、それから三重地方税管理回収機構への職員派遣終了や再任用職員の任期満了等に伴い職員数が3名減少したことに加え、副市長の辞職に伴い給料、職員手当、職員手当の地域手当と退職手当は除きますけれども、それらと共済費は減少しておりますが、退職手当については、普通退職者が12名と多く、9,586万7,000円の増となったことによるものでございます。

成果説明書の59ページのほうをごらんください。

主なものとして、給与等管理業務では、特別職2名と一般職員、派遣職員も含みますけれども、43名分の人件費で、28年度は伊勢志摩サミット開催に伴い三重県伊勢志摩サミット推進局へ職員1名を6月末まで派遣、それから日本離島センター、東京のほうですけれども、こちらへも職員1名を派遣いたしました。

次に、その下の職員健康管理業務として、今年度から実施が義務づけられましたストレスチェックについて、厚生労働省の実施マニュアルに基づき定期健康診断と同時に実施をし、478人が受検をしました。うち、高ストレスに該当した者は29人で、産業医による面談を推奨したほか、各部署を15の集団に分類し、集団分析を行いました。

また、次のページですけれども、職員のメンタル不調を防ぐとともに、職員の心の健康保持・増進を図るため新たに職員のこころの健康相談業務として、メンタルヘルスに関する研修及びカウンセリングを実施いたしました。健康診断の結果、ストレスチェックの受検状況、こころの健康相談業務の研修、メンタルヘルスカウンセリングの受講者は記載のとおりでございます。

決算に関する説明書のほうです。51ページ、52ページをお願いいたします。

中段より下の備考欄です。備考欄2秘書管理費でございます。成果説明書は61ページでございます。

支出済額は395万3,000円で、前年度より41万4,000円の増となりました。これは、サンタバーバラ市との姉妹提携50周年として親善使節団訪問事業に参加したことによるものでございます。そのほかは、ほぼ変わりございません。

決算に関する説明書の53、54ページのほうをお願いします。

備考欄3の国際交流事業でございます。成果説明書は61ページのほうの下の部分です。

支出済額は220万円で、前年度より40万円の減でございます。主な要因は、前年度はサンタバーバラ市の親善使節団21名を招致したことにより、その分が皆減となったことによるものです。国際交流事業として、鳥羽市国際交流協会が実施する国際交流事業に対し補助金を交付しました。国際交流事業の主なものとして、姉妹都市サンタバーバラ市との中学生派遣招致事業のほか、姉妹都市提携50周年として親善使節団24名がサンタバーバラ市を訪問し、交流を深めております。

次に、備考欄4の総務管理経費（行政・法規）でございます。成果説明書は62、63ページでございますが、支出済額は1,417万3,000円で、前年度とほぼ変わりございません。

次に、備考欄5情報公開等経費でございます。成果説明書は63、64ページでございます。

鳥羽市情報公開審査会及び鳥羽市個人情報保護審査会とも不服申し立てがなく、また鳥羽市行政不服審査会についても審査請求がなかったため、支出はございませんでした。情報公開及び個人情報開示の状況は記載のとおりでございます。

次に、備考欄6の人事管理経費でございます。成果説明書は64ページから66ページをお願いします。

人事管理業務として、平成29年度職員採用試験を実施いたしました。また、応募がなかった船員（航海）については二次募集を行い、採用試験を実施しております。採用試験実施状況、職員数内訳、職員の異動状況は記載のとおりでございます。

研修事業としましては、三重県市町総合事務組合が開催する各種研修へ職員を派遣したほか、専門研修、庁内研修等を実施し、職員の資質向上に努めました。各研修の受講状況は記載のとおりでございます。

○戸上 健委員長 山本副参事。

○山本副参事 企画財政課、山本です。よろしく申し上げます。

続きまして、備考欄7行政改革推進事業でございます。決算成果説明書は45ページをごらんください。

行政改革推進事業につきましては、509万5,000円を支出しております。内容としましては、平成27年度から2カ年をかけて策定しました公共施設等総合管理計画の委託料389万2,000円、それと管理計画の策定とあわせて行いました主要な公共施設の評価・分析業務として97万2,000円の支出になります。

以上です。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 同ページでございます。

目2文書広報費の支出済額は1,333万2,000円で、前年度より92万5,000円の減でございます。主な要因は、前年度に備品購入費で公用車を購入したことによるものでございます。

成果説明書の67ページのほうをごらんください。

文書広報事業として、市民へ市政等の情報を発信するため、広報とばを年間12回発行し、高齢者の方にも読みやすく、市民に親しまれる広報紙づくりを心がけました。また、有料広告を暮らしの情報ページに掲載し、43万円の収入を得ております。そのほか、市の施策等を周知するため、とば出前と一く「おしゃべりし対話」を25団体で29回実施をしております。

○戸上 健委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 目3財政管理費です。383万9,000円を支出しております。前年度と大きな変更はございません。

○戸上 健委員長 会計管理者。

○上村会計管理者 57ページです。

目4会計管理費です。35万2,000円を支出いたしております。前年度とほぼ変わりございません。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 同ページでございます。

目5財産管理費の支出済額は8億1,863万6,000円で、前年度より2億9,871万5,000円の増となっております。主な要因は、基金積立金の増によるものでございます。

備考欄1の庁舎維持管理経費でございます。支出済額は1,161万円で、前年度とほぼ変わりございません。

決算に関する説明書です。59、60ページのほうをお願いします。

備考欄2財産管理経費でございます。成果説明書は68ページから71ページでございます。

支出済額は901万6,000円で、前年度より152万9,000円の増となっております。主な要因は、旧答志出張所解体工事を実施したことによるものでございます。

成果説明書のほうの市有財産管理業務をごらんください。68ページでございます。

市有財産の管理や処分を適正に行うとともに、自主財源を確保するため、積極的に普通財産の貸し付けや売り払いに取り組んでおります。普通財産の貸し付けとして、土地建物貸付収入として、前年度より貸付面積が増加し、23万1,000円増の3,978万1,000円となりました。普通財産の売り払いにつきましては、遊休未利用地、市営住宅跡地、相差地区開墾地処理で、不動産売払収入として2,277万円の収入を得ております。内訳は記載のとおりでございます。

また、菅島採石場の緑化工事につきましては、大山地区、東山地区とも記載のと通りの工事が行われ、土石かんらん岩売払収入としましては前年度より2,400万4,000円増の4,359万4,000円の収入がございました。

次に、69ページのほうの入札契約事務事業としましては、市が行う建設工事等の入札・契約事務を各課より受託し適正に執行するとともに、実務的な指導助言も行いました。また、最低制限価格の算出方法、現場管理費の算出を80%から90%へ改定をし、6月17日以降の公告もしくは指名通知された入札から適用いたしております。入札参加資格者名簿、それから建設工事等の入札状況等は記載のとおりでございます。

○戸上 健委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 同じく備考欄の3です。基金積立金で7億9,800万9,000円を支出しております。

職員退職手当基金が減少したものの、財政調整基金、減債基金、ふるさと創生基金が増加したことにより、基金積立金全体では昨年度より約2億9,700万円増加しております。積立金の不用額640万2,000円につきましては、入湯税減収に伴う観光振興基金積立金の減額や超低金利による各種基金運用利子の減額が主な理由です。

○戸上 健委員長 山本副参事。

○山本副参事 続きまして、目6企画費でございます。引き続き決算に関する説明書は60ページから64ページになります。決算成果説明書は48ページから50ページでございます。

企画費では2,720万6,000円を支出しております。

それでは、備考欄のほうをごらんください。

まず、1の企画調整事業でございますが、73万8,000円を支出しております。総合計画審議会の開催と地方創生に係る説明会の参加や国の関係機関との調整のための旅費を支出しております。

次の61ページ、62ページをお願いします。

備考欄2地域連携事業でございますが、1,225万3,000円を支出しております。前年度と比較しまして828万4,000円の増となっております。これにつきましては、伊勢鉄道の安定的な経営のために県と関係市町での施設の安全対策に係る事業負担金861万6,000円を新たに支出しております。この負担金につきましては、平成28年度から平成30年度までの3年間で負担するもので、鳥羽市の負担分としては総額で2,561万6,000円とするものであります。

ここの備考欄にございます報償費、補助金の地域のためにがんばる団体応援事業と報償費の地域づくり応援アドバイザー事業につきましては、市民課で実施している事業でございます。また、平成26年度から10月8日を鳥羽の日と位置づけた広報活動事業に補助金として鳥羽の日実行委員会へ50万円を支出しております。

次に、備考欄3友好都市提携事業であります。125万3,000円を支出しています。取り組みとしましては、昨年同様、三田市との各種交流事業に取り組みを行いました。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 決算に関する説明書の63、64ページのほうをお願いします。

備考欄4伊勢志摩サミット推進事業でございます。成果説明書のほうは72、73ページでございます。

支出済額は1,296万円で、前年度より955万9,000円の減でございます。5月26、27日の両日に開催されました伊勢志摩サミットに向け、鳥羽おもてなし会議による全市的な取り組みとして、公式行事等の開催支援、それから鳥羽のプロモーション、記念イベント等を実施いたしました。5月26日にミキモト真珠島で開催された配偶者プログラムでは、鳥羽志摩の海女、おかみによる出迎いの後、現役海女との対話、九鬼水軍太鼓演奏などが行われ、多くの市民と各国首脳配偶者との交流が実現し、また5月27日には、三重県情報館で「現役海女による講話と対話」に鳥羽の海女が出演し、海女文化や鳥羽の海産物の魅力がメディアを通じて世界に発信をされました。鳥羽の情報発信プロモーション、記念イベント等を実施しまして、サミット後の活性化を目指した鳥羽の魅力発信に努めております。取り組み内容については記載のとおりでございます。

○戸上 健委員長 市民課長。

○橋本市民課長 市民課、橋本でございます。よろしく願いいたします。

同ページ、63、64ページ、決算成果説明書の109、110をごらんください。

目7連絡所費、支出済額2,949万9,000円。連絡所運営管理経費の主なものは、市内8カ所に配置する嘱託職員10名分の賃金等でございます。連絡所の業務につきましては、成果説明書の110ページに記載しております。

主なものは、戸籍、住民票等及び諸証明の発行、市税、後期・介護等の保険料の徴収のほか、各課からの申請等の取り扱い業務など、年々複雑・多様化しておりますが、各担当課との連絡調整を図るなど、市内各所に同一のサービスの提供に努めております。

菅島連絡所の雨漏りに伴う屋上防水工事費130万2,000円を支出いたしました。そのうち、3階部分を使用の菅島町内会からは、面積案分した額を連絡所改修事業費寄附金64万3,000円入金していただいております。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 款、説明書、同ページでございます。

目8公平委員会費の支出済額は24万3,000円で、前年度とほぼ変わりございません。

○戸上 健委員長 市民課長。

○橋本市民課長 同ページ、65、66ページ、決算成果説明書の111ページをお願いします。

主な経費としまして、備考欄1交通安全普及事業で164万3,000円でございます。前年度とほぼ変わりございません。

備考欄2交通安全施設整備事業397万9,000円は、建設課分でございます。

成果説明書239ページをごらんください。

交通安全施設及び通学路整備工事ですが、市道本町商船学校線外5線道路反射鏡等設置工事など11件の工事請負費となっております。詳細につきましては、後日開催されます土木費のところで担当の建設から詳細をお聞きいただければありがたいと思います。

以上です。

○戸上 健委員長 寺本副参事。

○寺本副参事 防災危機管理室、寺本です。よろしく申し上げます。

目10防犯対策費、決算に関する説明書65から68ページ、成果説明書74から75ページをごらんください。

防犯対策費として307万7,000円で、昨年度とほぼ同額となっております。

○戸上 健委員長 安部館長。

○安部市民文化会館館長 文化会館館長の安部です。よろしく申し上げます。

決算に関する説明書67、68ページ、成果説明書の75ページをお願いします。

目11文化会館費につきましてご説明します。

備考欄1市民文化会館運営管理経費の支出済額は3,202万円で、前年度とほぼ変わりありません。

決算成果説明書75ページをお願いします。

文化会館の使用状況につきましては、小会議室の利用回数が前年に比べて333回減少となっております。

この主な要因は、27年度に国勢調査があり、3カ月余り、回数にして約300回利用いただいたことによるものでございます。

以上でございます。

○戸上 健委員長 市民課長。

○橋本市民課長 決算に関する説明書69、70ページ、決算成果説明書の111ページ、112ページをごらんください。

目12神島開発総合センター費、支出済額248万円、備考欄1神島開発総合センター運営管理経費で、主な支出は光熱水費でございます。昨年度は、27年度なんですけれども、3階集会室の舞台幕や漏水による修繕費合わせまして144万9,000円を支出しておりましたため、その額が減額となっております。業務内容に関しましては変わりございません。

○戸上 健委員長 寺本副参事。

○寺本副参事 目13防災対策費、決算に関する説明書69から72ページ、成果説明書の76から82ページをごらんください。

防災対策費として3,592万で、昨年度比2,733万7,000円の減額となっております。その主な要因は、臨時傭人賃金等195万6,000円、防災資機材等整備事業499万6,000円、地域防災コミュニティ助成事業80万円などの増額に対して、津波避難路の夜間対策としての太陽光発電蓄電池式LED灯整備事業2,523万9,000円、津波避難路整備事業1,019万円、防災情報相互通報システムの機能追加業

務139万5,000円などの減額によるものです。

新規事業としましては、鳥羽市地域防災計画（風水害等対策編）の印刷製本費の62万3,000円、津波対策用自主防災倉庫等整備事業132万2,000円、長期継続契約となる同報系防災行政無線市役所操作卓の賃貸借、初年度分31万7,000円などとなります。不用額の大きいものとしては特にありません。

以上です。

○戸上 健委員長 山本副参事。

○山本副参事 目14地域振興費でございます。引き続き、決算に関する説明書71ページから76ページになります。決算成果説明書の50ページから54ページをお願いします。

地域振興費では2億6,697万円を支出しております。前年度と比較しまして1億3,119万3,000円の増額となっています。この主な要因といたしましては、ふるさと納税の寄附金の増によりまして返礼品に係る費用が増額したためでございます。

次に、不用額についてでございますが、総額4,534万9,000円の不用額となっています。この主な要因といたしましては、ふるさと納税業務に係る特産品の返礼のための報償費の執行残になっております。

それでは、備考欄に沿って説明をいたしますので、お願いします。

まず、備考欄1離島振興事業では256万3,000円を支出しております。この離島振興事業では、当初、島っ子ふるさと学習事業として委託料122万6,000円を当初予算に計上して答志島を中心に組み立ていく予定をしておりましたが、地元団体等との調整協議を重ねてきましたが、島の旅社や体験の受け入れ、答志島のほうではそういう業務が今でもある中で、なかなか地域の機運を盛り上げるができなかったことがありまして、今回は見送りをさせていただいたのが現状です。あとの部分につきましては、前年度とほぼ同様の決算額となっております。

次に、備考欄2地域振興事業でございます。支出額は1億9,839万6,000円で、前年度と比較しまして6,527万6,000円の増額となっています。この主な要因は、前段でのご説明を申し上げましたふるさと納税業務の特産品返礼品の増加によるものでございます。また、昨年度からふるさと納税の業務については観光協会にお願いをしておりまして、昨年度は委託料として支払っておりました事務費を平成28年度から手数料として支払う形に統一をさせてもらっております。

それでは、別途提出をさせていただきました資料をごらんいただきたいと思っております。企画財政課の3という資料になります。

それでは、資料の内容につきまして簡単にご説明をさせていただきます。

上の表は寄附件数の表であります。

下のほうの寄附金額のほうで説明をさせていただきます。平成24年度から29年8月末までの金額をまとめてグラフ化したものです。平成28年度は5億4,661万5,000円で、前年度の2億712万3,000円を大きく上回る金額となりました。昨年度と比較して大きく伸びた要因といたしましては、特産品の拡充や感謝優待券の利用施設の拡充、観光協会への委託などを行い、また全国的なふるさと納税への注目や伊勢志摩サミットの開催などの相乗効果があったものと考えております。平成29年度の状況といたしましては、8月末現在で2億471万3,000円のご寄附をいただいております。今のところ昨年度を上回る

額となっておりますが、11月の真珠製品等の返礼品見直しの後も順調にまた伸びていくことを期待しております。

資料の上段は申し込み件数の推移となっておりますので、後でご確認のほど、よろしく申し上げます。

それでは、説明書のほうへ戻っていただきまして、補助金のところになります。

備考欄の補助金のところですが、一般コミュニティ助成事業といたしまして、地域コミュニティ施設の備品整備を行うための補助金として720万円を支出しております。この事業につきましては、市民課の所管で決算成果説明書112ページに記載しておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、続きまして備考欄3地域おこし協力隊事業と備考欄4集落支援員事業、備考欄5移住・定住促進事業につきましては、昨年度から地域振興事業の中から新たな項目を出しておりますので、昨年度と少し記載が変わっております。

それでは、地域おこし協力隊事業をご説明申し上げます。協力隊事業では1,082万1,000円を支出しております。この地域おこし協力隊事業では、産業振興や情報発信などの地域支援を行うために地域おこし協力隊を配置しております。主な経費は、協力隊の募集や活動支援に係る経費、住居費等が主なものであります。また、地域おこし協力隊支援事業では、総務省の協力隊サポートデスクから専門相談員2名を講師として招いて鳥羽市地域おこし協力隊セミナーを開催しました。平成28年度に配置されている協力隊につきましては農水商工課の所管で、配置人数や活動実績等につきましては決算成果説明書の187ページ、188ページに記載しておりますので、よろしく申し上げます。

次に、備考欄4集落支援員事業です。653万3,000円を支出しております。この集落支援員事業では、集落点検や地域の見守り、共同作業や地元行事の支援を行うために、2地区1分野において集落支援員を配置しております。長岡地区は市民課の所管で決算成果説明書112ページ、神島地区につきましては健康福祉課の所管で決算成果説明書125ページ、観光資源担当につきましては観光課の所管で決算成果説明書215ページに記載しております。

次に、備考欄5の移住・定住促進事業です。4,865万5,000円を支出しております。決算成果説明書では53ページ、54ページになりますので、申し上げます。

移住・定住促進事業につきましては、平成28年1月から始まった移住・定住の取り組みも、平成28年4月には県内市町では初となる移住者受け入れのための専門部署、移住・定住係を企画財政課に設置しまして、正職員2名と臨時職員1名の体制で、都市部で開催される移住相談会への参加や庁内各課と連携をしながら横断的に取り組みを進める方針のもとで、仕事、住まい、子育てなど、個々の移住希望者に応じた切れ目のない、きめ細やかな移住支援について取り組みを進めてきました。

事業内容としましては、田舎暮らしを希望する都市部の移住者を積極的に呼び込むために、若者や子育て世帯などのターゲットとなる移住希望者に応じて関係情報誌に広告掲載を行い、市外に向けた効果的な情報発信を行ってきました。また、「”とばぐらし”の魅力を再発見」と題して広報とばや行政放送における移住者紹介、地域情報誌、近鉄名古屋線車内広告を使った情報発信もを行い、定住促進策の一環として「住んでいてよかった」をテーマにした市内向けの情報発信も行ってきました。これ以外にも予算を伴わない事業としまして移住者の受け入れに積極的な地域との懇談会や打ち合わせを継続的に行い、地域での移住希望者の受け入れ環境

の整備に努めてきたところです。

その結果としまして、平成28年度の移住者は16組34人の方々が鳥羽市へ移住をしていただきました。この取り組みにつきましては、県の行政担当者や移住を専門とする大学の関係者からは、地域と連携をしながら取り組みを進めているところに先進性があると高い評価をいただいております。

市の方針としましては、移住・定住を単なる移住者の受け入れとして考えるのではなく、地域課題の解決とかけ合わせながら取り組みを行う移住・定住のまちづくりとして事業を展開してきました。この展開の結果、今では県内の行政担当者や大学関係者の問い合わせもふえ、視察の申し込みもだんだんとふえてきている状況です。今後につきましても、28年度に引き続いて鳥羽市が三重県の移住・定住のトップリーダーとして、また全国のトップレベルの先進地を目指して、さらに取り組みを進めているところです。事業内容につきましては、移住・定住の奨励金等、決算成果説明書のほうに記載をしてありますので、またごらんください。

以上です。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 決算に関する説明書は同ページでございます。

目15情報管理費の支出済額は1億1,387万2,000円で、前年度より2,484万6,000円の減となっております。主な要因は、庁内情報推進事業の減によるものでございます。

備考欄1の地域情報化推進事業でございます。成果説明書は82ページをお願いします。

支出済額は490万5,000円で、前年度とほぼ変わりございません。

次に、決算に関する説明書77、78ページをお願いします。

備考欄2の庁内情報化推進事業でございます。成果説明書は83ページから86ページでございます。

支出済額は9,428万9,000円で、前年度より2,470万6,000円の減となっております。主な要因は、社会保障・税番号制度事業の減によるものでございます。

成果説明書のほうの83ページ、庁内情報化推進事業、こちらをごらんください。

同事業としまして、庁内ネットワークの維持管理とともに地理情報システムやグループウェアシステム等を活用し、庁内の円滑な情報共有や事務処理の円滑化を図っております。

次のページ、84ページのほうをお願いします。

繰越明許費で、情報セキュリティ強化対策業務として、内部事務系ネットワークから直接インターネット接続できないようネットワークを分割し、メール受信についても添付ファイルの削除やテキストデータ化によって無害化を行うなどのセキュリティーを強化いたしました。

84ページの下欄の総合住民情報システム事業としまして、総合住民情報システムの運用及び保守業務を行っております。

85ページのほうですけれども、また、主に住民基本台帳の情報を各市税の賦課・徴収業務を初め医療、福祉などの各業務に活用し、計算処理や登録判定事務の効率化や窓口における市民サービスの充実を図りました。

その下の繰越明許費では、住民基本台帳情報を取り扱う総合住民情報システムからの情報流出を徹底防止するため、端末の操作については従来の認証方式、IDとパスワードでございましたが、それに生体（静脈）認証を追加し、二要素認証とするなどのセキュリティー強化を行いました。

その下の社会保障・税番号制度事業としまして、団体内統合宛名システムやID連携サーバーを用い、適切に情報連携されるようシステム及びネットワーク環境の維持、保守を行っております。

86ページのほうをお願いします。

29年度からの情報連携開始に向け、他自治体との情報連携を行う全業務において適切に情報通信ができるか等の総合運用テストと一部のシステムにおいて改修を実施しております。

決算に関する説明書の79、80ページのほうをお願いします。

備考欄3の行政放送事業でございます。支出済額が1,467万7,000円で、前年度とほぼ変わりございません。

○戸上 健委員長 定期船課長。

○中井定期船課長 続きまして、目16の交通事業費でございます。決算に関する説明書は79ページから82ページ、成果説明書は307ページと308ページでございます。

目16交通事業費の支出総額は8,051万5,000円で、前年度に比しまして259万3,000円の増でございます。増加の主な要因といたしましては、鳥羽市営路線バス開設業務207万3,000円の増でございます。

まず最初に、市営路線バス運行状況につきまして、あらかじめ提出させていただいておりますかもめバス利用状況統計をもとに概要を説明させていただきます。A3縦長の資料になっております。よろしいでしょうか。

まず、1ページの①乗車人員の表でございます。表右下の合計欄をごらんください。28年度は24万3,870人の方にご乗車をいただいております。27年度と比較いたしまして7,558人の増加で103%、つまり3%の増となっております。また、②運賃収入につきましては、28年度は5,299万3,000円で、前年度比458万7,000円の増加、110%となっております。①、②の表から見える28年度の動向の中で顕著なものとしたしましては、乗車人員、運賃収入ともに5月の前年度比112%、176%が挙げられます。これは、伊勢志摩サミットの警備等で当市に多く宿泊された関係者の方々が多くご乗車いただいたことが主な要因だと思われま。

次に、③路線別乗車人員Ⅰ、④路線別乗車人員Ⅱでございます。③の表は、路線別乗車人員を年度別にあらわしたものの、次ページの④は月別にあらわしたものになります。③、④の表から見える28年度の動向としましては、小浜かんぼ小涌園線が前年度比91%で3,444人の減、鳥羽国崎線が111%で7,739人の増、他の路線はほぼ前年度並みとなっております。主な要因といたしましては、小浜かんぼ小涌園線では、27年11月からかんぼの宿が独自にお客様の送迎を始められたこと、また28年9月にホテル小涌園さんのほうが廃業されたことがお客様の減少につながったと考えられます。なお、この路線は、鳥羽小涌園の廃業に伴いまして、平成29年4月から鳥羽ウスタリアン線に名称を変更しております。また、鳥羽国崎線では、好調な相差石神さんへのお客様に加えまして、さきに申し上げました伊勢志摩サミットの警備関係者の皆様の好影響があったものと思われ、これは4ページの(4)周遊券販売枚数にも反映されております。

その他、3ページの⑤乗車券別利用(販売)枚数では、市民利用の乗り継ぎ割引券や回数券、定期券は、ほぼ前年度並みの傾向ではありますが、4ページの下になります(参考②)いきいきお出かけ券の利用につきましては、前年度比113%と増加していることから、いきいきお出かけ券でのバス利用のお客様も順調に伸び

てきていることがうかがえます。

これらのことから、28年度のかもめバス利用状況としましては、伊勢神宮遷宮年の25年度には及ばないものの、伊勢志摩サミットの影響もあり、乗車人員、運賃収入とも27年度を上回る結果となりました。

それでは、戻りまして、決算に関する説明書80ページの備考欄をごらんください。

印刷製本費でございます。印刷製本費の支出額が93万5,000円と前年度とは大きく変わっておりませんが、このうち55万4,000円は離島活性化交付金及び観光振興基金を財源として、成果説明書の307ページの新たに実施した事業にもありますように、公共交通時刻表につきましては、27年度までは日本語版、英語版の2種類を作成していたものを、近年増加しております中華圏からのお客様に対応するため、中国語版2種類を新たに追加して4種類を作成しております。

続きまして、82ページの備考欄をごらんください。

委託料のうち、鳥羽市営路線バス運行業務の7,720万3,000円につきましては、委託先であります三重交通がかもめバスを運行するための全体経費から運行収入等と国からの地域公共交通確保維持改善事業費補助金を差し引いた額で、前年度比で56万7,000円の増となりました。金額的には大きくは変わってはいないのですが、運賃収入は増加したものの、国庫補助金の減少に加えて、お客様の集中的な増加により、バスの追車が多く発生いたしました。この結果により、収入は上がったんですが、支出のほうも大きくなってしまったということで、委託料全体としては大きく変わっておりません。

また、最後に、新たな事業というわけではございませんが、決算成果説明書の308ページでございます新たな財源、ふるさと創生基金繰入金564万4,000円の繰り入れにつきましては、28年度より路線バス運行の業務委託料におきます、先ほど言っておりました追車代のほうに財源を充当させていただいております。その他につきましては、前年度と大きな変動はございません。

以上です。

○戸上 健委員長 市民課長。

○橋本市民課長 同ページをお願いします。決算成果説明書の113ページをごらんください。

目17コミュニティセンター費、支出済額132万2,000円でございます。

備考欄1コミュニティセンター運営管理経費としまして、桃取、畔蛸、船津、答志、答志和具、5町の指定管理業務委託料を合わせました経費でございます。前年度と比較しますと、答志コミュニティセンターと答志和具コミュニティセンターの2施設の指定管理業務委託料も加えております。

続いてお願いします。目18諸費、支出済額3,055万3,000円でございます。主な支出は、備考欄1自治会運営経費としまして75万3,000円、災害時相互応援協定を締結しております長野県大町市の自治会連合会との交流事業等視察を兼ねました自治会連合活動費と、あと町内会掲示板設置事業は、ほぼ変わりありません。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 備考欄の2でございます。弁護士報償経費でございます。支出済額は77万7,000円で、前年度と変わりございません。

以上です。

○戸上 健委員長 市民課長。

○橋本市民課長 備考欄3自衛官募集事業は4,000円。

続きまして、備考欄4臨時運行許可経費につきましても、ほぼ変わりございません。

○戸上 健委員長 企画財政課長。

○山下企画財政課長 同じく諸費の備考欄の5です。過年度国庫支出金等返還金です。決算成果説明書の55ページをお願いします。

55ページの上段に、過年度国庫支出金等返還金で、平成27年度地域活性化・地域住民等緊急支援交付金の精算による超過額及び震災復興特別交付税の過大交付分209万円と、同じく成果説明書の126ページをお願いします。126ページの上段の過年度国庫支出金等返還金の健康福祉課分で、平成27年度の実績に基づき、国・県負担金及び補助金の超過額2,692万6,000円、55ページ分と合わせまして2,901万5,000円を支出しております。

○戸上 健委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

(「昼食休憩」の声あり)

○戸上 健委員長 それでは、ちょっと早いですけれども、昼食休憩にします。再開は午後1時からお願いします。

(午前11時43分 休憩)

(午後 0時58分 再開)

○戸上 健委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

第2款総務費のうち第1総務管理費について説明を受けました。今から質疑に入ります。

質疑の順番ですけれども、決算説明書の49ページから81ページ、32ページにわたる膨大な分野になります。それで、ひっくるめてやりますと、あちこちちぐはぐしますもので、3段階に分けます。まず、第1は49ページの総務管理費から57ページの財産管理費まで、それが終わってから59ページ目6企画調整費からP71の防災費まで、最後にP71、目14地域振興費からページ81、諸費まで、この三つに分けて審議いたします。

それでは、最初にページ49の総務管理費からページ57の財産管理費まで、ご質疑はございませんでしょうか。

(「七十幾つまでですか」の声あり)

○戸上 健委員長 49から57、財産管理費までです。59の企画費の前までです。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 56ページの備品購入費、デジタルカメラ。これは何台買うたの。

○戸上 健委員長 総務課長。

○寺田総務課長 1台でございます。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 どんなやつを買うたの。デジタルカメラで14万円やということやね。ほかにもようけ出とるんさな、3万円台とか。かなり高価なものを買うたんかい。

○戸上 健委員長 高島係長。

○高島係長 デジタルカメラにつきましては、一眼レフのカメラになっています。

あとは、付随する三脚とか、そういうものも含めた価格となっております。

以上です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員 すみません、成果説明書のほうで、45の全国離島振興協議会職員派遣事業、これは入りますよね、中に。

(「何ページ」の声あり)

○山本哲也委員 成果説明書は45で、決算説明書のほうは52ページの旅費と家賃及び共益費のところ、旅費が53万円と、家賃及び共益費が98万4,000円。金額はいいんですけども。

○戸上 健委員長 72ページやな。

○山本哲也委員 いや、これは52ページに入っていますけど。

成果説明書は45です。範囲内でいいですよ。

○戸上 健委員長 はい。

○山本哲也委員 成果のほうで、シティセールスを行うとともに、首都圏で得られた情報を各課へフィードバックしたというところで終わっているんですけども、フィードバックしてどういう成果があったのかというところまでちょっとお聞かせ願いたいなと思います。

○戸上 健委員長 村山副室長。

○村山副室長 企画財政課、村山です。よろしく申し上げます。

東京に出向させていただきましてありがとうございます。東京での成果ということで、まずは外務省の地域の魅力発信セミナーというセミナーがあるんですけども、これは在日の外交団に対して地域を売るというセミナーでして、それに平成28年度参加をさせていただきまして、そこで外務省の方に、来年度、伊勢志摩が出たいということで、29年6月5日に東京のほうで地域の魅力発信セミナーを行いまして、伊勢志摩地域で参加をしました。

それと、国土交通省の国土政策局離島振興課長が、年明けのここの1月17日から19日にかけて鳥羽市のほうへ視察に来ていただきました。志摩市のほうへも来たんですけども、三重県の離島6島を視察いただいて現状を見ていただいたということです。

それと、今年度実施されましたけれども、国土交通省海事局の内航課長が鳥羽のほうへ見えまして、ここの5月18日、19日で来ていただきまして、定期航路の現状について見ていただいたと。

あとは、公明党のほうで海岸ごみ対策推進委員会という委員会がありまして、そこで鳥羽市の現状をとすることで、鳥羽市の環境課とともに公明党のほうで鳥羽市の現状を訴えさせてもらったというような点と、あと、ふるさと納税の関係で、東京都庁におきまして、全国観光PRコーナーというのが東京都庁の中にありまして、

そこでPRをさせていただきました。また、本年度の補正予算で要求させていただきましたポケモンとの関係ですね。ポケモン事業につきましても、昨年度、何度か六本木のポケモン本社に通いまして、今年度の事業に結びついたというところがありますが、一番の成果といたしますと、たくさんの人、国の人とつながりを持つことができ、仕事をする上で重要なことは、つながりができたり、きずなができたりというところが重要であるというふうに感じました。

以上です。

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 2行でしか書かれていないので、それだけ成果があるんやったら書いたってほしいなど。それだけ立派な成果を上げてもらって、それだけしっかりとしたパイプもつくっていただいているのに、ここを触れへんだら、そのままスルーで、その成果に触れることもなく終わってしまうのはちょっともったいないかなというふうに思います。しっかりと成果を上げられておるなどは思いますので。ただ、今年度は派遣がないということなので、その辺も考えていただけたらなというふうに思います。ありがとうございます。

続いていいですか。

○戸上 健委員長 はい、どうぞ、山本委員。

○山本哲也委員 これは、説明書のほうの52ページの職員健康診断のところなんですけれども、成果説明書でいいますと60ページのところで、職員の健康管理業務で健康診断を受けていただいております中で、健康診断結果を見させていただきますと、正常範囲内が15名と、去年16名からの1名減の15になっています。それで、要医療が113人、去年が108人やっと思っております。これも5人ふえておるんですね。要精密検査は83から62には減っておりますけれども、この辺の職員の健康管理というところで、いまいち成果が上がってきていないところが見受けられるのかなというふうに思いますので、この辺の結果を踏まえて、今までできておったことが正しいのかどうかとか、もうその辺も見直していきながらする必要があるのかなというのと、要医療のこの数字の上げ方なんですけれども、これは前回上がってきた108人の中で、改善された方がどれだけかおって、さらにプラスになったのか。それとも、108人はそのまま108人で残って新たに5人なのか。その辺の数字の把握というのはされていますでしょうか。

○戸上 健委員長 世古課長補佐。

○世古課長補佐 総務課人事係の世古です。よろしくお願いします。

判定のデータを持っているかということなんですけれども、うちは一人一人の結果を職員が一人一人種分けをしているんですけれども、それを前年の比較ということで一応資料でもらっているんですけれども、昨年より悪化した人が29名です。変更なしというのは57名です。簡単に悪化と変更しないという人数はそういう内訳になっております。

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 先ほども言ったんですけれども、いろんな健康管理で対応されているかと思うんですけれども、ここの数字は極力少ないのがいいのかなと思います。健康でしっかりと業務に当たっていただくのがもちろん大切なことやと思いますので、その辺はやっぱ意識して、ふだんからの健康に気を使っていたいただきたいなというふうに思います。

続いていく前に、ちょっと休憩を入れます。

○戸上 健委員長 副委員長、ごめん。

(委員長交代)

○木下順一副委員長 委員長、どうぞ。

○戸上 健委員 ちょっと関連なんですけれども、正規職員で受診したのが164人です。これは法的には毎年1回受けなさいということになっているはずですが、何で正規職員の半分かというのを知りたいんです。

○木下順一副委員長 世古補佐。

○世古課長補佐 ほかの方は、35歳以上になれば人間ドックのほうを受診していますので、残りは健康診断を受けていただいているということになっております。

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 そうすると、正規職員は全員受けたというふうに理解してよろしいんですか。

○木下順一副委員長 世古補佐。

○世古課長補佐 ただ、病気休暇であったりとか、育児休業だったりとか、そういった方で受けられない方はみえますので、それ以外の方は全員受診をしていただいております。

○木下順一副委員長 よろしいですか。

(委員長交代)

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 先ほどの回答で、35歳以上の方は人間ドックを受けらるということで、その数字はこっちには出てきていないということでもいいのでしょうか。

○戸上 健委員長 世古課長補佐。

○世古課長補佐 そういうことになります。

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 ということは、ここの数字は34歳以下の比較的若い職員の数字という認識でいいのでしょうか。

○戸上 健委員長 世古課長補佐。

○世古課長補佐 臨時職員等も含めますので。ただ、35歳以上であっても、人間ドックを受けない方は健康診断を受診していますので、一概にはそういうことはちょっと言えません。

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 気になるのは、ある程度年齢がいくつと、そういう部分でひっかかってきたりするのかなというところがあって、こういう数字になるのかなと思ったんですけども、逆に若い職員でこういう要医療とかでひっかかってくるほうがちょっと心配やなというところがあって、ここのひっかかっておる人数の年齢層というのも把握はされておるんですね。その辺ちょっと心配やなというのがありまして、要医療というのもレベルがあるのかもしれませんが、何せちょっと健康にはしっかりと留意していただきたいなというふうに思います。

○戸上 健委員長 世古さん。

○世古課長補佐 言われるように、この内訳を見ますと、こういう内訳になるんですけれども、内訳の仕方もあるんですけれども、一応結果として出てくる項目の中で一番悪いもので仕分けをしている結果がこういう形になってくるというのも一つの要因かなと思います。

例えば、私でいきますと、私は人間ドックを受けていますけれども、例えば健康診断なんかでも、人間ドックなんかでも、私もどちらかというと、健康に見えるかわかりませんが、要検査やったりとか、それは例えば血圧が高いとか、あともう一つ違う、そこは発症していないので何も全然健康には影響ないんですけれども、そういった部類もありますので、この結果が全て悪いというふうに捉まえてもらってもちょっと困るかなというふうには思っております。

○山本哲也委員 でも、項目によりけりですね。

(「関連」の声あり)

○戸上 健委員長 はい、木下委員。

○木下順一委員 ちょっと関連をお願いします。

先ほどストレスの高いのが29人。これは、どの課がぶっちゃけ多くて、その要因がどこにあるんかないのだけ、ちょっとわかっておればお願いしますわ。

○戸上 健委員長 世古課長補佐。

○世古課長補佐 それはストレスチェックですね、健康診断じゃなくて。

ストレスチェックは、29名、誰がというのは、正直な話、これは……

○木下順一委員 誰がいうのか、どの課……

○世古課長補佐 誰がというのは、これは実際、職員個々のプライバシーに関係してきますので、実際その人事権を持っている、例えば、私は人事異動の関係の担当になりますので、私がそれを見て判断を、誰が高ストレスになっているというのは、実際には把握はできません。法律とか運用上はそういうふうになっています。

実施者には職員がなったらだめということもありますので、なれる方が決まっていますので、うちは産業医の先生が一応実施者で、業者をお願いをしてストレスチェックをしているという状況なんですけれども、高ストレスが29名で、全体でいくと6.1%。ただ、誰が高ストレスかというのは、私たちが把握することは余りよくありませんし、もし把握するのであれば、同意書を職員の方に得ていますので、それをもって把握ができるというような状態というか、運用の方法になっています。

○戸上 健委員長 木下委員。

○木下順一委員 まあ、余りあれですけれども、誰とは言わんけれども、どの課かなというだけを聞いたかっただけで、それはよろしいんですけれども、あと、こころの相談業務がそういう方らにとってどういう効果をもたらしておるのか。そこもちょっとお願いできませんか。

○戸上 健委員長 世古課長補佐。

○世古課長補佐 こころの健康相談は、ストレスが原因で心の病、メンタルヘルス不調に陥っている方がおるといことで、前副市長からも指示があって、28年度から実施をさせていただきました。

これを見ていただくと、29名受診をしてもらっているということなんですけれども、その内訳は、病気から復職された方、やはりずっと休んでいて、すぐにフルタイムの仕事をするようになってくると大変ですので、そうい

ったことでも負担があるやろうということで、そういった方であったりとか、自分から受診するわという方で
すね。あと、採用から5年ぐらいを経過する職員の人たち、若年層にそういった傾向も見られるということな
ので、そういった方と、他の職員から、例えばあの職員がちょっと調子悪そうやよというふうなことを耳にし
ますことはありますので、そういった人に声をかけながら受診をしてもらっています。

以上です。

○木下順一委員 ありがとうございます、結構です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、続いて59ページ、目6企画調整費から71ページ防災まで審議いたし
ます。

ご質疑はございませんか。

河村委員。

○河村 孝委員 成果説明書で74ページ、防犯対策推進事業の中の防犯灯整備事業なんですけれども。

○戸上 健委員長 河村委員、マイクを入れてください。

○河村 孝委員 ごめんなさい。

自治体連合会への防犯灯の補助金、これは各町内会からの要望を自治会連合会さんがまとめてということだ
と思うんですけれども、この金額、27年度は180万円かな、それで20万円28年度はふやしてもらって
おるんですよ。これでもう各町内会からの要望は足りているんですか。把握していますか。

○戸上 健委員長 山田副室長。

○山田副室長 防災管理室、山田です。よろしくお願いします。

町内会から要望は例年400万円程度上がってきています。それで、財政当局とお話した中で、こういう
金額に落ちついたという形になります。

○戸上 健委員長 河村委員。

○河村 孝委員 頑張って28年度は20万円ふやしてもらったんですけれども、引き続き、町内会の要望が多
いところでもあると思うので、財政当局ともよく話し合って何とか要望に応えられるようにしてあげてほしい
なというふうに思います。

以上です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 70ページの防災対策事業の消耗品。災害時の備品、ミルクスティックタイプ、これはどれぐ
らいもつの。

○戸上 健委員長 山田副室長。

○山田副室長 ミルクは賞味期限が1年程度です。毎年入れかえを行っています。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 27年度、2,640本、これはみんなもう廃棄という形になるのかいな。

○戸上 健委員長 山田副室長。

○山田副室長 毎年、健康福祉課と協議させてもらって、保育所で利活用はしていただいています。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 今回、3,860になっておるわね。このふえた要因は何なの。それだけ子供がふえたとか。1,220ふえておるんさ。

○戸上 健委員長 山田副室長。

○山田副室長 対象のお子さんの年齢もきっちりと精査したところ、この本数が適正だというふうになりましたので、ふやさせていただきます。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 とりあえず、これは非常食やでさ、やっぱり最低でも1週間備蓄という流れが一番望ましいのかなと思うんやけれども、あとの備蓄品に関しても、米に関しては5年物、7年物とあるやんか。それ以外は、おかゆとアレルギー対応、それとビスケット。そのビスケットはアレルギー対応。これに関しては賞味期限はないの。あるんですか。

○戸上 健委員長 山田副室長。

○山田副室長 賞味期限はもちろんございます。アレルギー対応は5年で、今回買わせていただいたアルファ米は7年タイプがあります。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ここら辺は、1年未満で消費していかないかんというものは、やっぱり効率よく何かに使ってもらうとか、お子さんのおところに配ってもらうとかして、いざいざときの訓練になるような形をとっていただきたい。そういう流れができておるといことで理解させてもうてよろしいね。

ありがとうございます。以上です。

○戸上 健委員長 木下副委員長。

○木下順一委員 関連というか、私は避難訓練のほうをちょっと聞いてみたいんですけども、余り予算もかけずに去年は夜間の津波避難訓練もしていただきました。二、三年、三、四年かな、続いておると思うんですけども、ここの成果のところにも書いてありますけれども、注意すべき点を確認する目的で実施をしたということですけども、こういう夜間訓練を行って、市内全域でやっていただいたので、何か見えてきた課題等々があったら、そのあたりが見つけられたのならお願いしたいと思っておりますけれども。

○戸上 健委員長 山田副室長。

○山田副室長 夜間の訓練でしたので、実際に歩いてみて、危ない箇所を再確認できたという声が非常に多かったかと思えます。また、その意見を反映して、避難路整備の夜間の照明とか、そちらのほうにフィードバックできらたなと思っています。

○戸上 健委員長 木下副委員。

○木下順一委員 今後も引き続き、その防災対策をしっかりやっていただきたいと思えます。

以上です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員 すみません。説明書のほうの62ページで、成果説明書は49ページ、地域連携事業の三重TLOの活用について、庁内に周知を行ったほか、高等教育機関との連携を図りましたというふうなことで、TLOへの会費か負担金かということで30万円上がっておるんですが、TLOの活用について庁内に周知を行ったというふうにありますか、活用自体はあったんでしょうか。

○戸上 健委員長 岩井課長補佐。

○岩井課長補佐 企画財政課、岩井です。よろしくお願います。

28年度のTLOの活用は、教育委員会の生涯学習課で海女文化の活性化構想というやつをTLOを通して三重大学のほうと契約させていただいた実績がございます。

以上です。

○山本哲也委員 ありがとうございます。

以上です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、続いて71ページ、地域振興費から最後80ページ、諸費まで質疑いたします。

ご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ふるさと納税、地域振興事業の。この手数料のふるさと納税業務、内容は何なんですか。

○戸上 健委員長 岩井課長補佐。

○岩井課長補佐 ふるさと納税業務の手数料は、観光協会への手数料となっております。観光協会にほぼ礼状とか特産品の管理をしていただいております。寄附額の大体9%弱ぐらいで契約させていただいて、PR等を一生懸命頑張らせていただいているところであります。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 じゃ、この内訳を、今言われたように宣伝費とかさ。

さっき、ふるさと納税の件数としては5,249件やったわけですよ、28年度。それから見ると、大体1件当たり1万円弱の手数料を払っておるのかなと。ただ、ふるさと納税に係る物産品に関しては業者さんですよ。誰が幾らくれたから、返礼品は誰は何が欲しいという、それと宣伝広告費になってくるんですか。

○戸上 健委員長 岩井課長補佐。

○岩井課長補佐 5,000件も来ると、その電話対応とか、システムに誰から寄附をいただいたとかいう、やっぱり人件費的な形も要るものですから、半分以上が経費でかかっていきます。この4,900万円のうちの3,000万円ぐらいがもう実経費でかかってしまいますので、あと残りが観光協会さんの利益分という形になっているところです。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ただ、品物を提供する側にも協力は求めていると思うんさ。それで、やっぱり5,000万円のうちの4割はそこの利益になるというのはおいしい話ですよ。そこら辺がどうなのかなと。

問い合わせも受けます。それで、お金の金額によって返さないかんものも決めます。それを品物を販売するところへお願いするという形ですよ。普通の商売ですよ、それは。何も難しいこともなければ。

ただ、これが大きい少ないんじゃないしに、そこら辺の本当に丸投げをしておるのか、これが正しいのかなというところはもう一遍しっかりと考えていかないかと。職員さんが丸投げしておると実態自体を観光協会さんのほうへ何度も聞かないかん。それが本当に正しいのかなと、ふるさと納税の内容として。そこら辺をやっぱり自分らでできることが、次につながると思いますので、ここら辺はもう一度、立ちどまるということはないとしても、やっぱり自分らのできることは一遍把握することが観光振興になったり地域の活性化になったりすると思いますので、この観光協会さんのやっておる中身はしっかりと、報告だけじゃなしに、本来ならうちから1人派遣することも可能じゃないかなと思っていますので、そこら辺はよく考えて次につなげるようにしてください。

以上です。

○戸上 健委員長 河村委員。

○河村 孝委員 尾崎委員のお話にもありましたけれども、歳入のほうからでもそうなんですけれども、ふるさと納税の寄附金が占める割合というのが非常に大きくなってきている状況であります。非常に大事な事業の一つでありまして、28年度は5億円に乗っていただきました。努力もあったことだと思います。

それで、その内訳として、僕はちょっと一般質問で聞けなかった部分のデータのなものを教えてほしいんです。ふるさとチョイスがほぼほぼ使われていると思うんですけども、その中で寄附者が選べる項目があると思うんです、どういう事業に使ってほしいかと。5項目ぐらいあって、子育て支援から市長が必要と認める事業というところまでであると思うんですけども、その寄附者が選んだデータの割合みたいなものがあつたら教えてください。

○戸上 健委員長 岩井課長補佐。

○岩井課長補佐 寄附者から、先ほど委員が申されたように、5項目の使う事業宛てを向こうから指示していただいています。1番目が、子育て支援・学校教育の充実ということで1億6,200万円、大体30%です。次に、水産振興及び地域資源の活用で22%、離島振興及び定住人口対策で7%、高齢者が安心して暮らせるまちということで7%、最後の5番目で、その他市長が必要と認める事業ということで34%。大体これで100%の5億4,600万円となっております。

以上です。

○戸上 健委員長 河村委員。

○河村 孝委員 市長が認める事業が一番多いというところですが、こういった傾向にあるのは何でだろうという分析はしていますか。まだそこまではいっていないかな。

○戸上 健委員長 岩井課長補佐。

○岩井課長補佐 そこまではしていません。

○河村 孝委員 はい、わかりました。

引き続きいいですか。

○戸上 健委員長 河村委員。

○河村 孝委員 もう一つ、議会も三田市との交流をいろいろ深めて、ふるさとチョイスの中で、鳥羽にご寄附いただいても三田市の返礼品を使える。逆に、三田市に寄附があっても鳥羽市の返礼品を使えるというシステムになっているかと思うんですけども、その辺の実績があれば、数字を教えてください。

○戸上 健委員長 岩井課長補佐。

○岩井課長補佐 三田市と鳥羽市で、海の九鬼・山の九鬼ということで、一つの特産品を挙げさせていただいています。6万円の寄附に対して、1万円相当の三田の肉、1万円相当の鳥羽からアワビ、サザエまたはイセエビという形で返礼品を返させていただきます。それで、鳥羽市の市からの寄附をいただいた件数が13件、三田市へのこの寄附が41件ございました。

以上です。

○戸上 健委員長 河村委員。

○河村 孝委員 実際、三田市さんに寄附いただいた方が鳥羽の返礼品を利用していただいたのが多かったということですね。わかりました。引き続き頑張ってください。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 定住・移住推進事業のうちの住宅新築が30件、100万円ずつ渡しますけれども、もともと鳥羽の方がよそへ出ていって、もう一度鳥羽へ帰ってくるというパターンがあると思うんですけども、それは何件ですか。把握していますか。

○戸上 健委員長 重見係長。

○重見移住・定住係長 企画財政課移住・定住係の重見です。

今回の申請の44件のうち、もともと鳥羽からUターンされたという方は含まれていません、この中では。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ありがとう。

続いて、この情報発信かな……

(「ごめんなさい」の声あり)

○尾崎 幹委員 いいよ、どうぞ。

(「関連です」の声あり)

○戸上 健委員長 河村委員。

○河村 孝委員 ごめんなさいね。引き続き、移住・定住の応援事業。

当初は2,500万円で、補正を組んで3,000万円、新築のところで30件になっていると思うんです。確認なんですけれども、とりあえず要望があった分には全て、ルールをクリアしているものについてはクリアしているということなんだろうけれども、今後の考え方として、予算を置いて、また超える分については補正を組んでも要望に応じていくという方向性でよろしいんですか。

○戸上 健委員長 山本副参事。

○山本副参事 今のところ、申請のほうがありましたら、なるべく応えていきたいと思っております。

以上です。

○尾崎 幹委員 いいですか。

○河村 孝委員 はい、すみませんでした。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 情報発信ですかね。これは名古屋線、近鉄でよろしいんかいな。そして、なぜ近鉄の名古屋線を選んだか。そこら辺をちょっとお聞きしたいんやけど。

○戸上 健委員長 重見係長。

○重見移住・定住係長 これは、まず近鉄名古屋線の情報発信が、いわゆる市民向けの「住んでてよかった」を喚起するプロモーションになっています。

本市の人口流出状況を見ていきますと、近隣の伊勢市であったり、松阪市、また、その上の津市とか、近鉄沿線を沿うように北へ北へ人口が流出していくのが調査結果でもわかっております。そういった部分も踏まえて、近鉄沿線にこういったプロモーションをかけて、実は鳥羽って、ほかの市町にはなくて鳥羽にある支援施策であったり、子育て支援とかがたくさんありますので、そういったところを情報発信していきたいと思ひまして、このような形になっています。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ということは、三重県の今、鳥羽以外に住んでおる人らを対象にしたという考え方でよろしいんですね。まあ、特急は張らせてもらえんよってさ、他県のほうから本当はどんどん入ってきてほしいけれども、そこはちょっと難しかったという考え方でよろしいんやね。

ただ、やっぱりこれだけの44件が新たにこちらへ入ってくるという結果も出ておるわけやで、これは名古屋線の情報発信だけじゃないと思うけれども、これで成果が出てきておるといことは、もうちょっと枠を広げてええかなど。来年度の予算にちゃんと響くように評価してやっていって。

以上です。

○戸上 健委員長 世古委員。

○世古安秀委員 関連しますけれども、成果説明書の54ページの先ほどの下に、移住相談支援事業ということで繰越明許になっておりますけれども、これの相談件数はどれくらいあったかというのは、ちょっとお聞きしたいんですけれども。

○戸上 健委員長 重見係長。

○重見移住・定住係長 平成28年度の相談件数は82件になっております。

以上です。

○戸上 健委員長 世古委員。

○世古安秀委員 内容というのは、どういう県が一番大きくて、それが今回16組34名の移住で来ていただいたんですけれども、そういうものとうまくつながって、そういう結果になってきたということなんですか。内

容はどんなんですやろう。

○戸上 健委員長 重見係長。

○重見移住・定住係長 まず、地域ということなんですけれども、まず都道府県別で見えていきますと、一番多いのが東京都が約22%の割合を占めております。その次に大阪府が16.3%ということで、大都市圏のこの二つが相談件数としては非常に多いです。これは、私どもの部署が移住相談会でそちらにお伺いしているということが原因になっているかと思うんですけれども、移住・定住係としましては、これまで地方から都市に流出する一方だった人の流れを都市から地方に向けて人の流れを創出していきたいという思いがあって、やっている結果があらわれているのではないかなというふうに思います。

○戸上 健委員長 世古委員。

○世古安秀委員 大きな成果、全国のトップランナーとして移住・定住の移住者がふえたということで、引き続いて頑張っていたきたいなというふうに思います。

以上です。

(委員長交代)

○戸上 健委員 関連して、僕のほうから1点お聞きしますけれども、この移住・定住支援事業で、当初予算では移住コーディネーター、定住支援員の報償費239万円が計上されておりました。これは何で執行されなかったんでしょうか。

○木下順一副委員長 重見係長。

○重見移住・定住係長 結果として就任まで至らなかったというのが現状なんですけれども、まず平成28年度につきましては、そういった移住希望者の受け入れの体制を整備しようということで、各地域に出回って、学校統廃合計画のかかっている地域であったりとか、海女さんの数が減りゆく地域であったりとか、中心市街地で活力を失う地域等々に入らせていただきまして、そういったところで地域の方々との関係づくりができたところでして、定住支援員につきましては、ことしの4月1日付で3名、中之郷町内会長さん、石鏡町内会長さん、あと答志和具の副会長さん、それぞれに定住支援ということで、移住希望者が移住した後のフォローであったりとか地域案内とか、そういったところをしていただくような関係づくりもできております。

あと、移住コーディネーターにつきましては、また引き続き、我々正規職員2人と臨時職員1名で対応しているんですけれども、東京、大阪の相談会に行くのは正規職員の男性職員2人で行っているんですけれども、なかなか男性には相談しにくいこともやはり見ているとあるかなと感じております。そういった適任の方がいらっしゃいましたら、移住コーディネーターということで我々ともう一人その方が東京、大阪に行っていて、移住のアドバイスをしていただけるようにしていきたいと思っています。

○戸上 健委員 了解しました。

(委員長交代)

○戸上 健委員長 他にございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員 すみません。さっき言い漏れた分なんですけれども、ちょっと戻らせてもらうことは可能でしょうか。

○戸上 健委員長 はい、どうぞ。

○山本哲也委員 いいですか。すみません。

成果説明書のがんばる団体の事業なんですけれども、これは質問じゃなくて、ちょっと書き方のところで、これは全部、支援先というか、がんばる団体を挙げていただいておりますけれども、どういった事業をやってもうたとか、括弧として、こういった団体がやっていただいたとかというほうが、がんばる団体がどういうことをやっておるといのがよくわかっていいんじゃないかなというところで、事業内容とかを紹介してあげるほうが、より成果としてはわかるんじゃないかなというふうに思いますので、できればそのようにしてあげていただきたいというふうな注文でございます。

以上でございます。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 集落支援員事業、長岡地区、これは専任と兼任とありますけれども、兼任の規定とかそういうものはないんですか。

○戸上 健委員長 野村室長。

○野村室長 市民交流室の野村です。よろしく申し上げます。

兼任の要件ですか。

○尾崎 幹委員 両方とも、ちょっと一遍さ。それはなぜかという、この中には、兼任というのは重複しておる方が入ってもいいという考え方を持ってもいいんかいなという。

○野村室長 そうですね。兼任という場合は、町内会長等ということで定義がございましたので、うちのほうも初め委嘱するときに、総務省のほうにもお尋ねさせてもらって、民生委員の方が初めに推薦で上がられてきましたので、その方がこれに重複するかいということも確認させてもらったところでございます。

○尾崎 幹委員 それで丸やったの。

○野村室長 はい。兼任ということで。

○尾崎 幹委員 町内会長も民生委員もこれも兼任してええという。

○野村室長 そうですね、兼任の集落支援ということで。

○尾崎 幹委員 それで連合町内会長もですよ。そんなできますか。何かちょっとようわからんけどね。

やっぱり激務やと思うんですよ、町内会さんに、いろんな民間の方に頼む中でも。国がいいと言うて、それはもう大変で、そこら辺までは鳥羽市としては考えへんの。人も育てやないかんし、町内会の活性化もしていかないかんし、何でもええんやというたら、もうそれまででき。そこら辺は何か苦情とかそんなは来ていませんか、このときに。

○戸上 健委員長 野村室長。

○野村室長 こちらのほうの長岡地区の集落支援員なんですけれども、1人の方は無職の専任でございまして、もう一人の方が民生委員を兼ねている方でございます。これに関しても、民生委員の仕事もございまして、そのほかに地域のことを思っているということで尽力されておりますので、今のところ苦情とかは何もございません。

○尾崎 幹委員 わかりましたわ。それじゃ、鳥羽市の考え方としては、それでもオーケーやということやね。幾つ重複してようがという考え方でよろしいんやね。

○戸上 健委員長 野村室長。

○野村室長 鳥羽市の考え方じゃなくて、総務省の集落支援員のパンフのほうにもそういうふうに乗っておりますので、そういった理解をしております。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ええわ、もう、ほんだら。ありがとう。

ちょっと戻ってええかいな。

○戸上 健委員長 どうぞ。

○尾崎 幹委員 入札の件なんやけれども、これは成果説明の何ページでしたか。ちょっと戻らせて。忘れとった。

(「成果説明の70ページと違うか」の声あり)

○尾崎 幹委員 70ページ、ありがとう。

(「69、70ページ」の声あり)

○尾崎 幹委員 69やな。この現場管理費の件なんですけれども、80から90に改正という形をとってもうて今現在行われておるんですけれども、この中に現場管理費というものは仮設費も入っておるわけですか。

○戸上 健委員長 中村係長。

○中村契約管財係長 総務課契約管財係の中村です。よろしく申し上げます。

ご質問の件ですけれども、まず最低制限価格を算出するに当たって、大きく四つ、直接工事費、共通仮設費、現場管理費、一般管理費、この四つに特定の係数を掛けて最低制限価格を算出しますので、先ほど言われました共通仮設費というのは別の項目であるわけですが、今回の場合は、改正をしたのは現場管理費の係数を従来よりも上昇させたというのが、この決算成果で書かせてもらっていることです。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 その現場管理費の中には、仮設費が入っておるんですね。

○戸上 健委員長 中村係長。

○中村契約管財係長 現場管理費とはまた違う項目で共通仮設費というのがありますので、そちらのほうで、また計算する場合は別で数字を入れて、最低制限価格を算出するということになっています。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ただ、入札制度の改正は去年行われて、一つの事業をやりましたと。それで、本体と附帯工事がありますやんか。附帯工事に関しては、また同じ積算をして入札を行えるわけですよ。離島なんかの場合は、同じ業者がやっぱり落としていくわけなんさな。そのときに、今言われた内容を二つに分けておるんやけれども、一つ現場事務所をつくったら、それを同じように使っていくわけやんか。そやけど、それに莫大なお金に乗っておるわけですよ。それも入れて計算するのが本来の形なのか。

もともと本体工事であった仮設事務所を附帯工事であとの部分で道路を引きますと。それに、管理費の中に入っていないけれども、もう一つつくるわけですよ。そこに仮設費が乗っておるわけなんやけれども、本体

工事のものを全部使うわけですよ。または新たにという。これは教育委員会の神島の例なんですけれども、一切使われてへんけどお金はもらえると。それが現状やったわけですから、そこら辺はシビアな考え方してもらわないと、仮設費で1,600万円も附帯工事が出るような事業なんかないんですから。

ここでこういうことを載せてきたというのは、28年度に急遽行われたというのは、やっぱりそれは正しいかなと。一般から見たらちょっとおかしい分もあるんじゃないかなと。新たに壊して新たに作るという形の中の入札制度の積算、それで分離しておる流れが正当なわけやで、おたくの言うように。そこはやっぱりちゃんとしていかないかんと違うのかなと。

○戸上 健委員長 尾崎委員。今の指摘はまた教育委員会の決算のときにもう一遍言うてください。

○尾崎 幹委員 わかりました。

いやいや、ここで80から90の流れが改正されたもので、それがやっぱり上乘せされたということやで、そこはまずシビアな考えになって、これが継続になれば80が70になるのやというような流れがあるんやったら別やけれども、ここでこういう積算の改正があったというのにちょっと指摘しておきます。

以上です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、説明員を入れかえますので、暫時休憩します。

(午後 1時52分 休憩)

(午後 1時58分 再開)

○戸上 健委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、第2款総務費のうち項2徴税費から項6監査委員費までの説明を求めます。

税務課長。

○松村税務課長 税務課です。

続きまして、2項徴税費でございます。決算に関する説明書は81ページ、成果説明書は91ページからお願いします。

2項徴税費は、予算現額1億4,768万3,000円に対し、決算額1億3,909万8,000円、不用額858万4,000円となりました。1目税務総務費は8,930万8,000円の支出額となりました。

備考欄をごらんください。1税務給与等管理費の内訳は、職員の人件費と一般事務経費になります。備考欄2固定資産評価審査委員会経費です。平成28年度は、審査会へ申し立て案件はございませんでした。委員研修等の費用でございます。

税務総務費の不用額は334万2,000円で、主なものは給料及び共済費で、職員1名が12月途中から育児休業になったことによる執行残のほか、臨時職員の賃金で通勤手当の執行残でございます。

続いて、2目賦課徴収費は4,115万8,000円の支出となりました。備考1賦課事務経費は、課税に係る委託料や使用料並びに各種協議会等の負担金、過誤納償還金の支出で3,211万9,000円の支出をし、前年度と比較し410万7,000円の増加となりました。主な要因は、固定資産税の賦課業務において、平

成30年度の評価替えに備え実施した標準宅地鑑定手数料734万7,000円、大型区分所有建物の移動処理業務手数料284万9,000円、市民税の申告支援システムのマイナンバー対応システムへの改修委託料141万7,000円が新たに増加となりましたが、過誤納償還金は、前年度は一部企業の特許事業により発生した多額の償還金が28年度は平年並みとなり765万2,000円の減額となったことによるものです。

86ページの備考欄の2をお願いします。

徴収事務経費は295万7,000円の支出となり、80万9,000円の減額となりました。前年度は徴収システムの入湯税対応への改修を行いました、28年度は改修がありませんでしたので、その分の減額でございます。

3特別滞納整理経費は608万1,000円で、前年度より40万5,000円の増加となりました。三重地方税管理回収機構への負担金が増加したことによるものでございます。

賦課徴収費の不用額524万2,000円につきましては、役務費で滞納整理による土地鑑定料が簡易鑑定などで比較的安価で済んだことなどによる執行残及び郵送料の執行残、また償還金利子及び割引料で過誤納償還金の発生が見込みより少なかったことによる執行残が主なものとなっています。

徴税費の説明は以上でございます。

○戸上 健委員長 市民課長。

○橋本市民課長 決算に関する説明書87から88ページ、決算成果説明書の115ページからお願いします。

項3戸籍住民登録費につきまして、支出済額3,734万2,000円、支出でございます。目1戸籍費支出済額3,294万1,000円。主な内訳としまして、備考欄1戸籍事務経費でございます。職員4名分の人件費と嘱託職員2名分の賃金等で2,609万9,000円、戸籍総合システム保守業務及び戸籍副本データ管理システム保守業務委託料合わせまして326万2,000円、戸籍総合システム賃借料320万2,000円でございます。

続きまして、目2住民基本台帳費、支出済額440万円でございます。不用額の253万2,000円の主な内訳は、マイナンバー関連事業の経費の残額でございます。備考欄1住民基本台帳事務経費、主な内訳としまして、社会保障番号制度の導入に伴い個人番号が通知され、平成28年2月から個人番号カードの交付事務を行っておりますが、これらに関する委託料として、公的個人認証システム保守業務や連絡所証明発行用ネットワーク保守業務等合わせまして14万2,000円、あと通知カード・個人番号カード関連事務委任交付金303万9,000円でございます。また、繰越明許としまして翌年へ158万6,000円をお願いしておりますが、主な内訳は通知カード・個人番号カード関連事務委任交付金でございます。

住民基本台帳の動態につきましては、決算成果説明書の116ページに記載しておりますが、前年度比で人口405人減少、世帯数は46世帯減少いたしました。

以上でございます。

○戸上 健委員長 選管書記長。

○安部選挙管理委員会書記長 選挙管理委員会書記長の安部でございます。よろしく申し上げます。

決算に関する説明書89ページから96ページ、成果説明書100ページから104ページをお願いします。

項4選挙費の支出済額は2,322万円で、前年と比較しまして1,534万7,000円の減額となりまし

た。主な要因といたしましては、27年度には県知事、県議会議員、市議会議員選挙の執行がありましたが、28年度は参議院議員通常選挙の執行と平成29年4月16日執行予定の市長選挙、市議会議員補欠選挙、県議会議員補欠選挙の準備事務であったことによるものでございます。備考欄1選挙管理委員会給与等管理経費の支出済額は892万2,000円で、前年と比較しまして190万6,000円の減額となりました。主な要因としましては、人事異動によるものでございます。

次に、決算に関する説明書89ページから92ページ、成果説明書は101ページをお願いします。

備考欄1選挙啓発事業の支出済額は11万円で、前年度と大きく変わっておりません。

次に、決算に関する説明書91ページから94ページをお願いします。成果説明書は102ページをお願いします。

備考欄1参議院議員選挙費の支出済額は1,160万8,000円でございます。平成28年7月10日投票の参議院議員通常選挙執行に伴います期日前投票及び開票事務経費等を支出したものでございます。

次に、決算に関する説明書93から94ページ、成果説明書は103ページをお願いします。

備考欄1三重海区漁業調整委員会委員選挙費の支出済額は79万4,000円でございます。平成28年6月15日投票の三重海区漁業調整委員会補欠選挙並びに任期満了に伴います8月3日投票日とする選挙執行のため投票準備事務を行いました。両選挙とも委員候補者が選挙すべき委員の数を超えなかったため、無投票となりました。その中で委託料なんですけれども、海区選挙システム改修業務35万6,000円につきましては、従来入場券はA4横長で3券を印刷できる様式で封入作業をしておりましたが、事務を効率化するため、入場券をはがきサイズに変更したことによるものでございます。

続きまして、備考欄1鳥羽市長選挙の支出済額は40万7,000円でございます。平成29年4月16日投票とする鳥羽市長選挙執行に伴い、2月21日に立候補者説明会を開催するなど、選挙準備事務経費を支出したものでございます。

決算に関する説明書は95、96ページ、成果説明書104ページをお願いします。

備考欄1三重県議会議員補欠選挙の支出済額は95万3,000円でございます。平成29年4月16日を投票とする三重県議会議員補欠選挙執行に伴い、選挙準備事務経費等を支出したものでございます。委託料54万2,000円につきましては、入場券等作成に伴う県議会議員補欠選挙のみに係る費用でございます。

続きまして、備考欄1鳥羽市議会議員補欠選挙の支出済額は42万3,000円でございます。平成29年4月16日投票とする鳥羽市議会議員補欠選挙執行に伴い、3月17日に立候補予定者説明会を開催するなど、選挙準備事務経費を支出したものでございます。

以上、説明とさせていただきます。

○戸上 健委員長 山本副参事。

○山本副参事 続きまして、95ページから98ページをお願いします。

決算成果説明書の55ページ、56ページでございます。

項5統計調査費でございます。ここでは、統計調査費として638万1,000円を支出しております。備考欄1統計調査総務費として453万7,000円を支出しています。ここににつきましては、職員1名分の人件費を支出しており、前年度と特に変更はございません。

次、97ページ、98ページをお願いします。

目2基幹統計調査費でございます。基幹統計調査事業費として178万5,000円を支出しています。経済センサス活動調査に係る報酬の支出によるものです。

次に、目3県統計調査費でございます。この調査事業では、事務費として5万8,000円を支出しております。まして、昨年度と変わりはありません。

以上です。

○戸上 健委員長 監査委員事務局長。

○山下監査委員事務局長 監査委員事務局、山下です。よろしくお願いします。

初めに、訂正とおわびをさせていただきます。正誤表のほうにも入れさせていただきましたが、決算成果説明書105ページの主な経費のうち、工事監査技術調査業務委託17万7,000円を11万1,000円で訂正をお願いします。大変申しわけございませんでした。

それでは、決算に関する説明書は97ページから100ページ、成果説明書のほうは105、106ページをごらんください。

項6監査委員費、目1監査委員費で、決算額は1,559万1,000円でございます。主なものといたしましては、監査委員の報酬、職員の人件費、工事監査委託料でございます。委託料におきまして、前年と少し差異がございます。5万8,000円になっておりますが、前年は工事監査の日にちを1日で行ってりましたが、28年度は2日で行ったことによる差異でございます。不用額の6万4,000円については、当初予算では離島工事を対象した場合を想定し3日分の経費を予定しておりましたが、離島工事でしたが2日で行ったことから不用額が生じております。そのほかの経費につきましては、昨年度決算とほとんど変わりございません。

なお、実施しました各種の監査結果や監査結果に対しての措置状況については、ホームページのほうに掲載いたしております。

以上でございます。

○戸上 健委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 何やったか忘れたけれども、デジタルカメラ、3万幾ら、どんなを買うたの。何台ですか。

○戸上 健委員長 小島係長。

○小島固定資産税係長 税務課固定資産税係長の小島です。よろしくお願いします。

デジタルカメラにつきましては、防水機能付きのものを2台用意いたしました。これは、平成27年の台風18号で、被害家屋の調査でデジタルカメラが必要やということで、それに伴い2台新規購入したものでございます。

以上です。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 なぜそんな安物を買うたの。先ほどは1台で14万円、一眼レフなんやけれども、それで大丈

夫なのか。

○戸上 健委員長 小島係長。

○小島固定資産税係長 デジタルカメラにつきましては、防水の機能が第一ということで、写真の精度によって、例えば広報に使うものでもありませんし、現場を調査しまして、ここが壊れていますよといったものがわかればいい程度のものであり、これ以上のものになりますと予算的に厳しいということでございます。

以上です。

○尾崎 幹委員 大変ですね、予算を。シビアな計算をしていただいてありがとうございます。

以上です。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 私から1点お聞きします。

(委員長交代)

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 市民課長、マイナンバー関連ですけれども、300万円でしたか、費用が出ております。国のほうは、このマイナンバー導入によって職務が合理化できる、人員も削減できるというふれ込みでした。そういう結果に28年度になっておりますでしょうか。

○木下順一副委員長 市民課長。

○橋本市民課長 お答えします。

業務量としましては、削減できると言われていますが、ふえているような状態でございます。

以上でございます。

○木下順一副委員長 委員長。

○戸上 健委員 ふれ込みと全く違ったという、逆やったということやな。

(委員長交代)

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 質疑もないようですので、次に公債費等の審査に移りますが、担当課以外の説明員を退席させますので、委員の皆さんはそのままお待ちください。

それでは、引き続き審査を行います。

続いて、第11款公債費、第12款諸支出金、第13款予備費について、一括して説明を求めます。

企画財政課長。

○山下企画財政課長 続きまして、243ページをお願いいたします。

11款の公債費、1項公債費、目1の元金でございます。長期債償還元金として12億890万7,000円を支出しております。

続いて、目2の利子です。長期債償還利子として1億1,052万3,000円を支出しております。

続きまして、同じく243ページの12款諸支出金、1項公営企業費、目1交通事業費です。定期航路事業

特別会計に5,944万6,000円を繰り出したものです。

続いて、13款の予備費です。本年度の支出はございませんでした。

以上です。

○戸上 健委員長 説明は終わりました。

ご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 公債費の2の利子、これはもう先ほどと一緒に金利が下がると同時に利子分も下がったという考え方でよろしいですか。

○戸上 健委員長 北村課長補佐。

○北村課長補佐 この利子につきましては、起債を借り入れたときの利子になるので、当然、利率が高かったところに借りたものは高い利子でお支払いしていますし、最近の過疎債等でマイナス金利になったときは、もう0.01とかの低い利率で借り入れているということで、借りたときの起債の利率でお支払いしているということになります。

○戸上 健委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 そやけど、国自体が、日本銀行自体がマイナス金利というものを出してくるわけやで、長期で借りたときの金利の度合いもやっぱり下げてもらわないかんのが本来の形やと僕は思うんやけれども、そういう交渉とか、そういう流れは一切来いひんの、うちらみたいなまちには。それは、市町村会とか地方六団体が国から大きなお金を借りておるわけですやんか。本来は、そこで地方六団体は強く、マイナス金利になっておるのということ自体がここで出てへんというのは、本来やったらおかしいかなと思うもので、そういう活動は一切ないんですか。わからんかな。

○戸上 健委員長 北村課長補佐。

○北村課長補佐 例えば財政金融機構とか、お金を貸してくれるところは、貸すときに、おたくは例えば償還年限はこれだけで、それに対して利率がこれだけなので、総額でこれだけ最終的には返してくださいよというのは最初の時点でもう確約してしまうので、それを今、例えばマイナス金利になったから、利率が低いから、市としては本当はそれはありがたい話なんですけれども、相手方の立場から考えると、本来入ってくるべきものが今の金利がマイナスやから減らしてくれというのは、なかなか向こうとしてはのめないということで、ちょっと厳しいと思います。

○尾崎 幹委員 ありがとうございます。わかりました。できたらしたいなと思ったもので、申しわけない。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○戸上 健委員長 ないようですので、以上をもちまして本日の委員会を終結します。

引き続き、本日の振り返りを行いますので、執行部の皆さんは退席をお願いします。

それでは、本日審査した範囲の振り返りを行います。

委員の皆さんから取り上げたい事業等はありませんか。

来年度予算に執行部に対して反映をこれはさせるべしという項目について、決算委員会の議会提言というの

を別紙つくりますもので、議会改革特別委員会で承認された方向です。皆さんからこれはというのを出していただきたいというふうに思います。

まず、自分はこう思うというのを出していただいて、それぞれの項目について全体の委員間討議ということをしたと思います。

山本委員。

○山本哲也委員 さっきのときも言わせてもらったんですけども、成果説明書の45ページの離島センターへの職員の派遣のところ、ここは2行ですけども、実際に行ってもらった職員の方からは、あれだけの成果を言ってもらったのかなと思うので、今年度は派遣していないということなので、30年度は考えてもいいのかなというふうに思ったところでございます。

○戸上 健委員長 項目をまず出し合ってください。

ほかございませんか。

河村委員。

○河村 孝委員 歳入もやって、どういう税収の状況かというのも皆さんに聞いていただきました。それで感じたことだとは思んですけども、自主財源の中で、ふるさと納税の寄附金の占める割合が非常に大きくなってきていると。今後のことを考えて次年度への政策提言ということであれば、ふるさと納税のやり方というんですか、進め方を議会からもいろんなアイデアを出し合って、こういうことをやったらどうやという提案はしてみるべきではないのかなと感じました。

どういうふうなアイデアを出すかというのは、また皆さんと議論したいなと思うんですが、私、個人的には、一般質問で言ったような体験型メニューをふやした寄附していただいた方々にもっと喜んでもらえるような返礼品の充実とか、例えば漁業者に特化したガバメントクラウドファンディングなり、もっとそれを絞り込んで、海女さんの応援基金みたいなものをつくって、ふるさと納税で寄附をいただくようなシステムを私個人的にはぜひやっていただきたいなという思いがあるので、ぜひ皆さんとの議論のテーブルに上げていただいて、皆さんのいい知恵をおかりしたいなと思うんですけども。

○戸上 健委員長 わかりました。

他にございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 監査委員会からの報告の中で、これはどこやったか、できていひんのやけど、依存型の補助金団体があって、そういうの見直しとか、ランクAからDまでやったかな、生きておるやつが、Dなんかはもう切るべきやとか、それはやっぱり名前とかそういうものは公表していてもいいんと違うかなと。だって、皆さんの税金でやられておいて、そこをもし公表しなかったとしても、私らにはやっぱり何団体とか、どこの組合とか、そういうものは明確に出してもらうことが大事かなと思っていますので、それもひとつ議論してもらえればありがたいと思います。

以上です。

○戸上 健委員長 わかりました。

他にありませんか。

世古委員。

○世古安秀委員 先ほど尾崎委員が言われた補助金と負担金の評価というのは、執行部のほうからいろいろデータももらって、この中でA、B、C、Dというふうなランク、データが入っていましたもので、その辺で事業が終わったというようなやつはもうなしですよと。例えば、サミットの関係のやつは、もう終わりましたから、そんなものはDになって、来年はもうなしですよというような、ざっと見させてもらったら、そういうような評価の仕方がしてありましたもので、その辺はやっぱりちょっとこちらも。実際には、このことに対しては余り説明も何もしなかったんですけども、ただデータでぱっと送ったという、見ておいてくださいという一言で済まされたので、本当はやっぱりこういう行政側のチェックというのは一番大事なところなのかなというふうに思いましたもので、もうちょっと説明をもらってもよかったかなと思いました。補助金と負担金、いろいろ払っておるものの評価がずっと出ていますのでね。

○戸上 健委員長 他にございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員 あと、ここで言うのがいいのかどうかちょっとわからないんですけども、一つ気になったところで、移住・定住のところの情報発信を行いましたということで、広告掲載を行ったり、いろいろしていただいておりますけれども、例えば、その成果物とかというのは、どういったチラシをつくってというところ、雑誌に載ったページですとか、広告媒体に出して広告掲載を行いというところがあるかなというんですけども、成果物とかというのも多分観光課もこれからいっぱい出てくると思うんですよ。パンフレット作成ですとか、広告を打ちましたですとか、そういったものの成果物とかというのもできたら僕は見たいなと思うので、そういうものを求めるように進めるのかどうかということも議論していただきたいなというふうに思います。

○戸上 健委員長 わかりました。

ほかにありませんか。

坂倉広子委員。

○坂倉広子委員 職員の健康管理で、委員長も言われておりましたですけども、最大の効果と経費のほうは抑えてとうたわれている部分があって、非常に仕事の量がふえてきているのは、月刊ガバナンスを見ていまして全国的な職員のメンタルヘルスというのはすごくうたわれているんですよ。それで、このメンタルヘルスについては、職員の健康管理になるので、副市長の範囲になるのかとか思うんですけども、足りない部分の不足の人員とか、そういうふうなことをしたというのは全くここには見えませんが、しっかりした手だてをしていってあげないと、何でも。健康でもそうですよね、予防から入っていかないと重症化になるという。だから、やっぱり一人の職員さんの人材の力というのは、すごい宝だと思っていただいていると思いますけれども、そのフォローというんですか、フォローアップというのをもう少し明確にされる部分ってないのかなと思うんですけども、委員長、いかがでしょうか。

○戸上 健委員長 それも1項目取り上げたいと思います。

他にありませんか。

それじゃ、私のほうから、私も3点あったんですけども、そのうち1項目はさっき広子ちゃんがおっしゃ

ってもらった項目です。

議会費の中で政務活動費について、決算を見ると使い残しが18万円もある。本来、当初予算では218万円計上してあったんですけども、節約された議員の皆さんもいらっしゃいますもので18万円残っておる。ということは、別に来年度予算をふやさなくても1人1万円強政務活動費をふやすことができますので、使わない人はもう使わないでいいもので、これは決算の審議を経て、また議会改革特別委員会でも議論になるかもわかりませんが、政務活動費についてふやす方向というのを提言したらどうかというのは僕の一つの意見です。

それから、二つ目は、さっきも出ていました移住・定住で県のトップリーダーとしてというふうに、非常にこれは決算としても評価できる中身じゃないかというふうに思います。それで、議会としての提言の意味合いは若干そぐわないかもわかりませんが、移住・定住促進室をつくって移住・定住元年という形で28年度は始めたので、これが非常に議会としては評価できる、いい取り組みを担当課を中心にやっておるという点を押さえた上で、来年度予算もさらに充実強化してってもらいたいという記述にしたらどうかというのが私の一つの意見です。

ほかにございませんか。

また後から出していただいたら結構だと思います。

それでは、提案していただいた、七つあるんですが、それぞれについて議論をしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○戸上 健委員長 それでは、まず山本委員から提案のあった離島センター、これについて記述が余りにも簡潔明瞭過ぎると。どういう成果があったのか、どういうことをやったのかということをおにきちんとして報告できるようにすべしというのが山本委員の趣旨でしたな。この点についてはいかがでしょうか。ちょっと議員間討論をしていただきたいと思うんですが。

尾崎委員。

(「復活してくださいと」の声あり)

○戸上 健委員長 復活ということ。

○尾崎 幹委員 復活と、もっときめ細かな情報をこちらへ出せという話やな。

○戸上 健委員長 ちょっともうフリートキングでやってもらう。委員長一々通してもらわんでええ。マイクは入れといてください。

○尾崎 幹委員 先ほど言われたように、聞かなわからんことって山ほどありますやんか。それで、もうやめてしもうておる事業であって、そやけど、聞いておるとそれが評価につながるような流れというんは、聞かなわからんという部分がやっぱりようけあると。本当に職員の評価にもつながるようなことやと思っておりますよって、それが拡大されることによって、予算をつけたらもう一度きめ細かな底上げができるのと違うかなというんは、先ほど聞いた村山くん、あの子がやっぱりいろいろなところへ行っておるというのは、みんな知らんわけやで。村山くんの前も誰か行っておったよな。

(「山下さん」の声あり)

○尾崎 幹委員 山下くんが行っておるときなんて、本当に知らなんだわけやで、反対ならそこでな。

○浜口一利議長 委員長、私も発言権ありますか。

○戸上 健委員長 あります、あります、議員間討論ですので。

○浜口一利議長 今も山本委員のほうから言われた東京に出向するという制度、あと離島センターに勤めて、いろいろなことを国の機関に出向いたりという情報をこっちへということで随分プラスになっていると思うんです。私らも東京へ議長会なんかで行くと、鳥羽というと結構離島センターへ行くと、もう本当に大歓迎してくれるとか、そういう状況の中で、離島振興策とか、あと定期船の補助金と……

(「マイク入れるか」の声あり)

○戸上 健委員長 すみません、発言するときはマイクを入れてください。

○浜口一利議長 これまでもすばらしい効果はあると思います。定期船の内航課長が来ていただいたというのは、あれはめったにないこととか、初めてのことだと思うので、東京出張員がいたからこそ、そんなつながりができた今発言しておったけれども、その部分は大きいと思うし、離島航路における補助金というのは、最近、国からの補助金って結構多いですよ、1億以上来ておるから。そんな感じで、ことしは一般会計から定期船への繰り入れが5,900万円ぐらいでしでしょう。そんな形で国の補助金ということで結構それだけでもプラスになると思うので、これは私もぜひとも復活してほしいなということは思っていました。

○戸上 健委員長 山本委員。

○山本哲也委員 言ってもらったように、外に出るということは多分すごいプラスになると思うんです。職員さんの知識とかもそうですし、人とのつながりというのは多分財産になるものやと。それは市の財産にもなり得るものなので、どんどんそういうふうに出ていってもう積極的につながりを持ってもらう。発表してもらった職員の方からも、きずなができましたなんていう言葉も出ておったぐらいので、結構しっかりとしたパイプをつくってもらえたのかなとは思っているので、これというのは、離島センターの持っておるところの輪番とかというんじゃないんですよ。ことしは出てくださるかというんじゃないかと、出たいところが手を挙げて出ておる。というんでしたら、どんどん積極的に。

(何事か発言するものあり)

○戸上 健委員長 僕は記憶がないやけれども、29年度当初予算ではこれを削ったわけやろう。削った理由はどう説明しよったんやったかいな。議会で問題になったんかいな、予算委員会です。

○山本哲也委員 いや、上がっていません。

○戸上 健委員長 議長、問題にしたらどうや。

○山本哲也委員 ただ、出す職員が例えば条件があったりか何か、合わんのかもしれないですけども。

(何事か発言するものあり)

○山本哲也委員 1年間出すというところのあれもあるのかもしれませんけれども。

(何事か発言するものあり)

○戸上 健委員長 なるほど、ルーキーをやるわけにいかんしな。

○尾崎 幹委員 でも、鳥羽のことを考えたら出すべきやな。

○戸上 健委員長 俺も派遣してもいいぐらいや。

○尾崎 幹委員 山下くんが最初行って、それなりに下地をつくったのかもわからんけれども、村山くんできなりやっぱり評価が出ておるんさな。頑張っておるぞという入ってくるもの、向こうから本当に。

○戸上 健委員長 わかりました。じゃ、山本委員の提案、これは議会の提言書の中に入れるということよろしいでしょうか。来年度から新年度予算には東京の離島センターの職員の派遣費を計上するようにと。

(何事か発言するものあり)

○戸上 健委員長 半分議会費で派遣してもらおうか。

○世古安秀委員 いや、今回の鳥羽へ移住してきたというのは、やっぱりこの人も活躍して、いろいろなことで成果があったと思うんやね、東京、大阪からも来てくれたということは。その成果の大きな要因やと思う。

○戸上 健委員長 局長。

○濱口議会事務局長 実は、山下君が行っておった実績の報告と村山君が帰ってきたような報告というのは、実際に執行部ではあったんです。それを議員さんの前でまた言ってもらっても、そういう場をつくってもいいのかなという、それだけのためのね。それもあってもいいのかなと、ちょっと思いました。

○戸上 健委員長 わかりました。そしたら来年度の決算のときは、そのレポート、報告をもらおうと。

○世古安秀委員 157万円、決算額。家賃と共益費と。

○戸上 健委員長 第一のやつはよろしいでしょうか。

次に、河村委員から提案のあったふるさと納税のアイデア、これをさらに強化すると。その中身については、体験型のメニューとか、海女さん応援基金とか、ガバメントクラウドファンディングですか、こういう方向をさらに強めてほしいという提言を盛り込むという点についてはいかがでしょうか。

○世古安秀委員 私も、今回5億4,000万円ぐらいふるさと納税がありましたけれども、今からは自主財源の確保というのは鳥羽市にとってもやっぱり鍵になってくるのかなという思いはあります。ですから、何とかこの事業をもっと発展させるような方法をぜひ執行部にも考えていただきたいなというふうに思います。そういう意味で賛成です。

○戸上 健委員長 これは文句ないというふうに思うんですけども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○戸上 健委員長 これも盛り込むと、2番目。

じゃ、3番目は、補助金、交付金、これの尾崎委員から提案をやったやつですね。

○尾崎 幹委員 今、世古さんに言われて見て、これやなと思うんやけれども。監査委員のほうの報告の中の財政援助団体、これは皆さん知らんでしょう、援助されておる団体の名前を。もしくは、今回はこちら出ているのは事業なんですよ。団体が99件やったかな、3億ほど出ていますから、そういうものをちゃんと出していただいて、それでそこで評価が僕らには一切わからんと。監査委員しかわからん内容なんですよ。それが出していいものか悪いものかちょっとわかりませんが、そこら辺までは僕らも聞けるように。垂れ流しのようではやっぱりだめやと思いますので、そこら辺まではちょっと出して。

それはなぜかという、監査委員のほうから団体監査の報告が出ておるもので、その報告が出ておる中でも指摘事項が1件とか、努力が1件とか、要望が1件とか、それはどれで何なんやというのが一切僕らにはわからんもので、そこら辺も明確にできるものならしていただけることが次につながるのかなと。また、援助され

ておる団体もそれなりに活性化をせないかんと意識改革にもなるんじゃないかなと思っていますけれども、
どうですか。

○戸上 健委員長 世古委員。

○世古安秀委員 どういう内容で盛り込むかというのは、さっき言われたように一覧表も出ていますし、どこの課の担当で、どこの部署へ、例えば国際交流協会とか人権擁護委員会とか、みんな全部金額も出ています。その中でA、B、C、Dというような行政側はチェックをしていますので。

○尾崎 幹委員 これに出ておるのは事業なんです。そやけど、監査報告の中に出ておるのは団体なんです。

○戸上 健委員長 団体というのは交付金の対象やな。

○世古安秀委員 僕が言っているのは補助金ですけども、負担金もいろいろありますけれども、それも団体に対して幾ら補助金が出ていますよというのは全部これに記載されていますので、その中で、それじゃ、全てだめなんかいと、そんなわけやないでしょう。

○尾崎 幹委員 いや、だめとかそんなんじゃないしに、中身をやっぱりちゃんと精査できるような資料があつてこそ、僕らが事業の評価をできるのと違うかな。何々したけれども、こちらで評価されたものを出してきておるだけやもので、先ほどの山本さんと河村さんの言うておる流れもそれやと思うんさ。つくっていかないかんものはつくっていかないかん。応援せないかんものは応援せないかんけれども、やっぱり怠慢な組織、また事業もあると思うんですよ。それはやっぱりけつを押すことも僕らの大事な仕事かなと思っていますので、そこら辺はどうかなと思って。どうでしょうね。

○戸上 健委員長 まだきょうは1日目ですもので。

○尾崎 幹委員 課題にしておいてもらったら結構です。

○戸上 健委員長 そうやな。補助金、負担金について、僕も例えば人権分野で若竹集会所の支援員やったか何か、あれが56万円やったか、それだけの補助金というのがずっと出続けておるのやわな。そこだけ別格扱いやもので、こんなもの大概でやめておくと僕も言うつもりなんですけれども、そのときが出てきたらね。そやもんで、全体として補助金、負担金、交付金については執行部として次年度予算にはさらに精査を強めるようにという大きくて議事としては提言しておいたらどうかというふうに思うんです。個々の分野については、これからの審議の中で指摘をするというあたりでくくっておいたらどうかと思うんですけれども、どうでしょうか。

尾崎委員、よろしいか。

○尾崎 幹委員 それでいってもらえるんやったら、それでいいんですけども。

○戸上 健委員長 わかりました。

次に、移住・定住のPR活動を議会へ。

山本委員。

○山本哲也委員 成果物を。

○戸上 健委員長 成果物を。これはもう当然のことやと思うんですけども、ご意見はどうでしょうか。

観光課も、これからの議論ですけども、もうこういうパンフレットをつくりました、こういうポスターをつくりましたというのがさまざま出ます。それは一式、各議員には配る、決算委員会には出すということによ

ろしいでしょうか。

○山本哲也委員 一式もらわんでも、これに写真を撮ってもらってこんなんつくりましたでええと思うんですよ。こういう内容、パンフレットをもらってするとあれにもなるんで、表紙面だけでも並べて撮ってもうたりですか、こんなポスターをつくりましたですか、それを見て、これはどうなんや、去年もよう似たものつくったけれども、つくってどうやったんやとか、市内に掲示しましたとかという文言があれば、それを見て、いやいや、こんなん市内で見たことないけど実際どこに張ったんやとか、効果測定ができるのかなというふうにも思いますので、そういった実物の写真を見せてもらえたらなというふうに思いますという意図で発言させていただきました。

○戸上 健委員長 当然やと思うんですけども、ほかの委員の皆さん、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○戸上 健委員長 そしたら、4番目、これもオーケーで入れると。

それから、広子ちゃんからあった職員のメンタルヘルスの問題です。

これは、さっきの決算でも皆さんから出されていたように、職員の健康管理の健康診断も人間ドックを受けた人の結果については、この一覧表に出ていないというような、いわばこれもちよっと不十分です。ですから、成果説明書の60ページの正規職員、臨時、嘱託職員296人という数字は、全部の職員が一応受けておるわけなんで、圧倒的多数ですね、一部を除いて受けておるわけで、その分人間ドックの結果は出ていない。ですから、人間ドックを受けて、要医療がこれは113になっておるけれども、実際はもっと多いはずなんです。ですから、そういうきちんとした全体の職員のデータを次の決算には出すようにということと、それから、広子ちゃん、健康管理をどうするのかという、人員不足がどれだけというのは出ていないし、それから残業も、またこれは農水のところで僕も聞こうと思ったんですけども、農水の2人の職員の残業時間が平均残業時間の倍なんやな。早いもので、もうしわ寄せが行っておると、僕も残業問題を調べたときに、あの2人は大体毎晩12時までおったんかな。

坂倉広子委員の提案については、次の決算から全職員のデータをきちんと決算書に掲載するということが一つと、それから人員不足については……。

○戸上 健委員長 議長。

○浜口一利議長 そのデータを全部ここへ載せよということよりも、職員の健康管理というのは、働いてもらうについては本当に大事なこともやもので、手厚くもう少しこのあたりを重点的にフォローするような政策というかな、やってくださいという提言というのがいいのか。なかなか出せと言っても言いにくかったでしょう、今までは。

○戸上 健委員長 そうやな。ストレスが一番かかっておるのはどの課やと聞くもんです。これは言いづらいわ。

○浜口一利議長 やっぱりことしは心の管理のほうもやって、いろいろやってもらったけれども、さらにこのあたりのことを充実してくださいというぐらいのことでいいと思うんですけども、どうでしょうか。

○戸上 健委員長 なるほど。それでよろしいでしょうか。

広子ちゃん、それでよろしいか。十分気をつけて職員のメンタルヘルスをやってくださいと。

山本委員。

- 山本哲也委員 メンタルヘルスをやってくださいよりも、言うたら、僕はさっきも言うたんですけども、結果がそんなに変わってへんわけですよ。やっておる対策が正しいかどうかという。多分、根本解決に至ってないもので、数字が変わらずとかという話やと思うんで、本当にそうっておるあれがわかっておるのかなと思うわけです。
- 戸上 健委員長 局長、これはどんな対策をとってもらったのか。任されておると違うのか、健康管理は自己責任やぞと。自分でちゃんとウォーミングアップしたり、散歩したりせえよと言うておると違うんかいな。
- 濱口議会事務局長 基本は自己責任の部分やと思います。ただ、今、議長が言われたように、全体的な管理の責任者として、市としてやっぱり職員の健康管理は十分したってくれよというのが、その辺までぐらいしかないのかなというふうに思うんですけども。
- 世古安秀委員 例えば、休憩室もきちんとやっぱりしとかないかんし。
- 戸上 健委員長 休憩室な。
- 山本哲也委員 仕事のストレスだけで、別に家で暴飲暴食とかでというのは、いろんな理由もあるんやとは思うんですけども、職場だけじゃないのかなと思います。
- 戸上 健委員長 確かに山本委員が言うように職員の健康管理というか、健康が低下すれば、それが市民の仕事から出しておるわけだから、市民サービスがそれだけ低下するということになるもので、自己責任というのに任されておるといのはちょっと違うのやないかなというふうに思うな。何らかのことをせないかん。
- 濱口議会事務局長 どうしても悪循環なんですよ。役所でやってもなかなか処理ができやんで、家でまた（聴取不能）。現実的なこともあってですね。
- 戸上 健委員長 僕らと一緒にやな。
- 坂倉広子委員 フォローアップというのは、やっぱり管理職にある方が、課長クラスの人も気をつけてあげる、相談できるような課になっておるかとか、そういうのは目配り、気配りというのは。
- 濱口議会事務局長 それはもう理想だと思います。それが一番の理想。
- 坂倉広子委員 その理想によりどうやって近づけていくかというのは、やっぱり何というんですか。
- 濱口議会事務局長 要素的にはいろんな部分につながっていくかなと思います。例えば職員が少な過ぎるとか、こんなことを言うと僕がまた人事のほうにあれなんで。確かに人員不足は否めないと思います。そこら辺を考えたら、やっぱり負担は確かに多くなってますので、やっぱり悪循環が発生しておるんじゃないかなというふうには思いますけれども。
- 戸上 健委員長 そしたら、議会としては、職員のメンタルヘルスの改善計画をつくれと、持てと。これはもう実行やけれども、計画そのものがないんやでさ、今。
- 山本哲也委員 そんな計画でうまいこといくとは僕は思わへんものでね。
- 戸上 健委員長 これだけ減らすというのはあらへんのやろう。例えば、要医療というのを、ことしは何や、要医療やないわ、一番悪かったのを。
- 濱口議会事務局長 結果として、こうやって表に載って、要医療と出ています。しっかりそのときに医療を受けて、ちゃんと体を治してから出てきてくれというのはありかなと。ただ、無理してやっぱり職員らもやっている部分がありますので、休めるときは休んで、ちゃんとリフレッシュしてから出てきてくれというのもあり

かなと。そうでないと、治らんままずと病んだままというのがありますので、そこら辺では、自己も責任があるけれども、やっぱり管理職としても体をちゃんと治してこいという流れをつくってあげないといけないのかなというふうに思うんですけども。

○坂倉広子委員 めり張りをね。

○板倉紀男委員 環境整備やな。

○山本哲也委員 維持増進に努めましたと書いてもうてありますけれども、もっとしっかり努めてもらうように言うてもうたらどうかな。

○板倉紀男委員 神経内科の先生を連れてこなあかん。

○世古安秀委員 さらに充実させて。

○濱口議会事務局長 だから、その辺はもう本当に健康管理をしっかりやって、職員のあれをちゃんと注視してやってくれよというぐらいの提言ですのかな。

○井村行夫委員 数字的なものであらわされへんものですよ、これは。やっぱりけがの部分と心の部分と二つあるとしたら。けがの部分はもう治ってきて治ったなというのに、心の部分はなかなかね。でも、努めてくださいというような形のもので、それを強制的に努めよという。

○戸上 健委員長 かえってプレッシャーになるかわからんね。

○井村行夫委員 かえって苦しいなると違うかな。

○戸上 健委員長 わかりました。そしたら、今提案があったように、管理職として職員の健康管理、メンタルヘルス、これをもうちょっとしっかりやってくれというような、ちょっと淡い意味合いでとどめておきましょうか。

○尾崎 幹委員 大阪じゃないけれども。奈良、大阪はあげつないのが多いよってな。

もう一つだけいいですか。先ほどの補助金の今年度、28年度の中の事業に対しての補助金の一覧と評価は出ておるんやけれども、答志でも何でしたか、女の人らがやっておる島の旅社とか、エキボラとかやっておるみんな出ておるわけですよ。これは28年度の事業としてやったものに対して出ておるだけで、これは援助団体の話じゃないんです。援助団体もやっぱり明確にするべきやと思うんですよ。援助団体の評価は一切僕らはできてへんもので、ここに出てきいひんものに関して今は説明させてもうておるんやけれども、いかがなものかなと思って。

○浜口一利議長 今、島の旅社には補助金は出てないでしょう。

○尾崎 幹委員 例を言うておるだけやでさ。いや、本当に紀男さんがおるときに言って申しわけないけれども、船津森林組合に20年間、毎年500万円、1億円出ておるとか、その評価なんて僕らは一切わからんもの。

○戸上 健委員長 これは大きいな、これは。

○尾崎 幹委員 お金だけ行っておって、そのお金がどう使われておると。森林振興やという名目の言葉だけで、ほんで、そのお金の流れを結局チェックできてへん部分が余りにも多過ぎるんじゃないかなということがあると思いますので、そこら辺も本来は出してもらうと、より一層、それやったらもっと渡さないかんやないかとか、そこまで踏み込んでやれへんかなという提案だけしておきます。

○戸上 健委員長 わかりました。補助金交付規則というのがあって、そして補助事業をやる場合に事業計画書、

それから財政計画書、そういう五つばかり出さないかんわけやな。終わったらその報告書も出さないかんけれども、監査委員の報告によると、それを外れたり、そういうことをしておると。それから、剰余金でたくさん残っておるのに、なおかつ補助金をずっともらっておるということもあり得るもので。

○尾崎 幹委員 本当に、すごい国からももうて、県からももうて、市からももうて、各財団からももうて、民間からももうて、もう金余りの団体もあるわけですよ、びっくりするような団体も。

○戸上 健委員長 これはちょっと議会でそういう……。

○尾崎 幹委員 そやけど、鳥羽にないことをしておるというだけでお金が流れてしまうというのも、本当にそれがいいのかなという。ボランティア団体が給料を50万円以上もうておるとか、そんなんもやっぱり鳥羽の中にありますから。

○板倉紀男委員 そういうお金の流れてくるシステムをつくるのに物すごい努力が要るやないですか。それが流れてくるルートをつくるまでに、それだけの要するに努力が必要になる。

○尾崎 幹委員 それはもう、そやで流れておると思うんや。ただ、その中身は僕らは一切わからんわけですよ。ええか悪いかをやっぱり各決算をする限り、市民の税金が使われておると一部でもなれば、それがやっぱり。表へ出すなど言うんやったら出したらいかんけれども、一遍も見やんと終わっていくというような流れではいかんのかなというのをちょっと指摘したいなと思っています。

○戸上 健委員長 補助金とか負担金の交付団体については……。

○尾崎 幹委員 それは監査で出てきておるものでな。そやけど、これをみんな知らんでしょう。注意事項、要望、それに何でしたら指摘事項というのが、どこにどういう指摘、中身まではわからんわけやもので、これはやっぱり出してもらわんと。ああ、そういうこともあるんやと、それを知ることによって、違うものでも応用できるよとか、それは。それで、してほしいことはいっぱいありますよね。海女さんのことなんて、ここでもしくは精査できて、違うものにしようとするという形もできるんじゃないかなというふうな。財政的にはやっぱり余裕がないまちやで、それも一つの取り組みと違うかなと思っていますので。

○戸上 健委員長 尾崎委員、わかりました。

執行側とすれば、補助金の交付団体、それから負担金の交付団体について、なかなか踏み込んでこれをやめるということは言いづらい側面があるというふうに思うんです。それはやっぱり議会の役割やというふうに思いますもので、これから決算を審議する中で、補助金について、これは適正はどうかということそれぞれの委員の皆さんが問題意識を持たれたら指摘してください。全体として、今回の提言については、先ほど確認したとおり、補助金、交付金については大きくくりできちんと精査していくようにとかいう提言にとどめておくというふうにしたいと思います。

尾崎委員、それでよろしいか。

○尾崎 幹委員 はい。それで結構です。

○世古安秀委員 補助金負担金。

○戸上 健委員長 補助金負担金ですね。

それから、次に……。

○尾崎 幹委員 一番注目したいのは援助というところです。援助だけは一切皆さんには出ていませんから。

(何事か発言するものあり)

○戸上 健委員長 それでも、幹さん、予算を伴ったら全部出てくるわけやろう。

○尾崎 幹委員 最初は出てきますよね。あれは決算には出てきませんよね。

○戸上 健委員長 決算には出てきいひんか。わかりました。これはまたみんなで検討、勉強したいというふう
に思います。

次に、私が提起させていただいた議会の政務活動費のベースアップについてですけれども。

○尾崎 幹委員 してほしいな。月1万円か。

○戸上 健委員長 これは決算書によると18万円残してくれておるもので、幹ちゃんも大分残してくれておる
もので、2万円ぐらい残してくれておる。

○尾崎 幹委員 僕は使えへんものと思って。

○戸上 健委員長 片岡さんもたくさん残してくれておる。

今、報酬を引き上げるとか、政務活動費を引き上げるといのは、市民的な袋だたきに遭う可能性もありま
すもので、なかなか僕はこれを言いづらいんやけれども、しかし、政務活動費については1万3,000円と
いのは三重県14市の中でもどんけつぐらいなんです。僕ら同僚議員と話しておると、四日市は月7万円、
津は5万円、何や7万円どうやって使うんやと僕らは言うぐらいで、余り活動については、四日市の議員が
7倍僕らより活動しているかという、そんなに変わりません。そやもんで、これはもう1万3,000円で
はちょっと少な過ぎるんやないかというの僕の見解なんです。

山本委員。

○山本哲也委員 僕も少ないなとは思うんですけれども、ただ、この資料を見て、その話ができるかといったら
僕は多分できひんと思うんです。というのも、上限が15万6,000円で、返した分の金額だけ出ています
けれども、例えばですけれども、使った分全部出しておいて、そのうちの15万6,000円を割り当てまし
たという。例えば、本来やったら50万円使っておったけれども、そのうち15万円を割り当てたんやとい
うんやったら35万円足りんなというのがわかるんですけれども、そなんやったら上げてえやないかと言
えると思うんです。こうやって、15万円の中でも返しておる人間、僕も最初の年は返させてもらいましたし、
おる中やったら、僕はくださいとは、なかなか根拠が弱いかなと思うので、それを求めるのであれば、1年間
の15万6,000円だけ公表するんじゃなくて、使った金額を全部公表しておいて、そのうちの15万
6,000円はいただいた分から使いましたというふうにしてから求めるんやったら僕はできると思うので、
ぜひそうしてほしいなと思います。

○戸上 健委員長 他の議会の報告書を見ても、さっき山本委員が提起したように、政務活動費として使った総
額を列挙して、そのうちから幾ら公費で充当しましたというように発表しておる議会もあります。うちはまだ
15万6,000円だけやもので。

○山本哲也委員 使ったやつもう全部公表したったらええんです。そのうち15万円とかという分やったら
15万円を充てたと言ったら。実際これだけは使っとるんやと。じゃ、足りんねという話はそこから出てくる
ものやと思うので、今の段階の資料では、これは足りておるかどうかの感じはわからん話なんで、僕はこれ
もとにくださいというのはいにくいと思います。

- 戸上 健委員長 わかりました。これはちょっと……。
- 尾崎 幹委員 僕の場合は、もう本当に半分半分になってしまうんですよ。本当に陳情が半分で、最後に遊びが半分いうたらおかしいけれども、個人的な活動に入って、それはもう出せへんわけですよ。東京には月に1遍は行っておるわけですよ、国会とか。そやけど、半分は自分の私用で使ってしまうもので出さへんだけで。
- 戸上 健委員長 半分は計上できるやろう、それは。
- 尾崎 幹委員 そこですよ。そこをちゃんと明確に出させてもらうというてくと、また自分の遊びが半分入っているやないかと。そやで僕は出さへんだけで、東京なんかしょっちゅう行っておるんやで、国へ。
- 戸上 健委員長 議会事務局は厳格やものでな、なかなか……。
- 濱口議会事務局長 今、皆さんご承知のように、確かに政務活動費の用途については物すごく厳しい目があります。報告書が当然物を言うわけなんです、それがどういうふうに政策提言につながったか、自分のあれにつながったかというのが表に出ない以上は、それを評価してくれる人がどういうふうに評価するかというのは出てきますので、そうすると、安易に1万円やったら足りる、5万円やったら少な過ぎるとか、そういう話になかなか結びつかないのかなと思いますので、やはりそれが、15万6,000円ですけれども、十分これにつながっています。いや、もっともうてもええんと違うかということろまでやっぱり上げないと、なかなかさういった話には納得していただけないのかなというふうに思いますので。
- 戸上 健委員長 わかりました。これはもう却下しておきましょう。
- 尾崎 幹委員 えらい早い。戸上さんに期待しておったのに。
- 山本哲也委員 上げてほしいのは上げてほしいけれども、上げるためにしっかりした根拠を用意しましょうよ、議会として。
- 尾崎 幹委員 そうしましょう。
- 世古安秀委員 政務活動費の成果説明をちゃんとして。
- 戸上 健委員長 紀男さんのところの議会改革特別委員会でちょっとまた。
- 尾崎 幹委員 そうしましょう。
- 戸上 健委員長 最後、7点目ですけれども、移住・定住元年で非常に頑張ってくれたけれども、そういう記述をもう少し濃密なものにしたらいんじゃないかと。ちょっと余り淡泊過ぎて、口頭ではトップリーダーというのも出ていましたけれども、文章化というのは難しいのかな。もうちょっと議会としても評価してもいいと思うんです。そして、来年もっと頑張れというふうに濃く激励してもいいんじゃないかというふうに思うんですけれども、この点についてはいかがでしょうか。これはエールを送るという点です。よろしいでしょうか。
- 山本委員。
- 山本哲也委員 本当に、係の職員さんらは何回も東京とか大阪とかにいっぱい行って、本当に移住相談会とかに行っても結構細かく相談された方のフォローをしてもらって、カルテとかも全部つくっているんですよ。この人は何回相談に来たとかも全部持っておるし、細かい対応を一生懸命していただいている成果がこうやって出ておることやと思いますので、その辺もしっかりと評価してあげていただきたいなと思います。
- 戸上 健委員長 職員の表彰規定というのは機能しておるのかいな。28年度決算の表彰者のトップには当たるわな。

○濱口議会事務局長 候補には挙がるかなとは思いますがけれども。

○河村 孝委員 議会から表彰した方がいい、それで漏れたら。

○戸上 健委員長 議長、議会の評価ランキング。議長から金一封が出るかもわからん。

議長。

○浜口一利議長 さっきの答えの中で、当初予算より足りなくなっている部分では、補正補正でどんどんやっていくというような答弁やったと思うんですけども、当初予算はもうちょっとこれなら上げる必要が当然あると思う。ただ、補正で対応していくというのは、予算的には何かちょっとこう。

○戸上 健委員長 そうやな、継ぎはぎやでな。行き当たりばったりになるでな。

○浜口一利議長 予算をもう少し、このぐらい事業をやっていくということであれば。

○尾崎 幹委員 もう最初からもっと大きな幅で積算してもうたらいいだけで。

○浜口一利議長 そう感じたわけやけどさ。

○戸上 健委員長 わかりました。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○戸上 健委員長 それでは、今出されました六つを委員長報告に附属させる執行部に対する議会の提言ということで入れたいというふうに思います。

明日、9月21日も午前9時から予算決算常任委員会を再開しますので、定刻までにご参集願います。

本日はこれもちまして散会いたします。お疲れさまでした。

(午後 3時12分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

平成29年9月20日

予算決算常任委員長 戸 上 健